

令和4年度

(令和3年度事業対象)

桶川市教育委員会
点検評価報告書



令和4年8月

桶川市教育委員会

あいさつ

はじめに、新型コロナウイルス感染症拡大防止について皆さまの深いご理解とご協
力に厚く感謝申し上げます。

感染症の発生から2年以上が経過しました。いまだ収束が見通せない状況ではあり
ますが、桶川市教育委員会では、「新しい生活様式」を取り入れながら創意工夫を凝ら
して、基本理念である「生きる力を育み未来へはばたく桶川の教育」の実現に向けて各
施策を推進してまいりました。

さて、この点検評価報告書は、一年間の事業を振り返り、学校教育や社会教育に関す
るそれぞれの取組について皆さまに分かりやすく読んでいただけるよう作成したもの
です。また、その内容の客観性を確保するために、2人の学識経験者からご意見をいた
だき巻末に掲載しております。

今後も感染症の拡大防止に留意しながら、子供たちの学びを保障するための学校教
育を支援するとともに、市民の皆さまが安心して社会教育施設を利用できるよう、様々
な取組を実施してまいります。

引き続きご理解とご協力をお願い申し上げます。

令和4年8月

桶川市教育委員会

教育委員名簿（令和4年8月26日現在）

教育長	岩田 泉
教育長職務代理者	水村 実男
委 員	青木 健志
委 員	秋山 節子
委 員	小野原 典子
委 員	西永 和子

学識経験者

上尾市立上尾小学校元校長	埼玉県公立小学校校長会事務局次長	升屋 好永
桶川市社会教育委員	桶川市青少年問題協議会委員	吉村 史朗

趣 旨

地方教育行政の組織及び運営に関する法律第26条により、教育委員会は、毎年、教育長に委任した事務を含め、その権限に属する事務の管理及び執行の状況について、自ら点検及び評価を行い、その結果に関する報告書を作成し、これを議会に提出するとともに、公表することとされています。この報告書は、同法に基づき、桶川市教育委員会が行った点検及び評価の結果をまとめたものです。

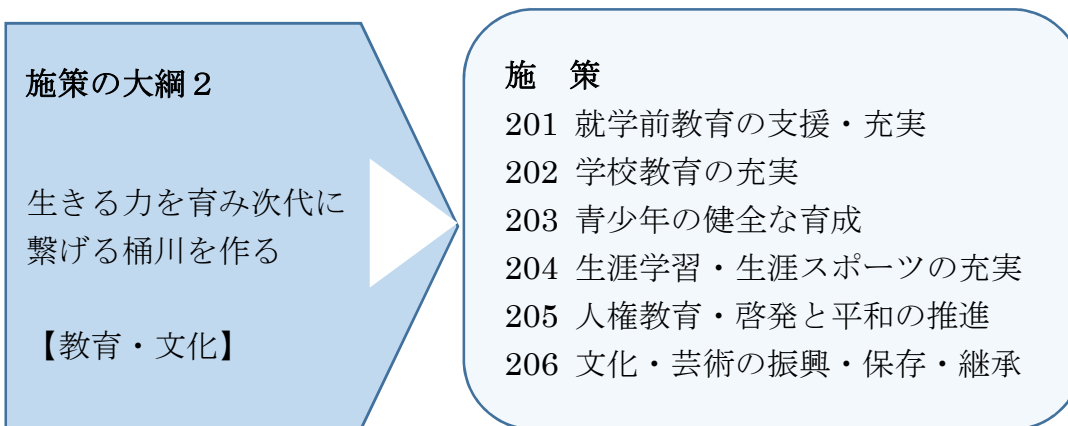
点検及び評価の基本方針

(1) 目的

桶川市教育委員会は、その権限に属する事務の管理及び執行の状況について自ら点検及び評価を行い、学識経験を有する方の知見を活用しながら今後の効果的な教育行政を推進するとともに、皆様への説明責任を果たしていくことを目的としてこの報告書を作成しました。

(2) 点検及び評価の対象と方法

この報告書では、「桶川市第五次総合振興計画後期基本計画」の施策の大綱2「生きる力を育み次代に繋げる桶川をつくる」に設定されている6つの「施策」を基に、別刊「桶川の教育」で示したとおり事業を体系化し、「事業実績」、「実績及び目標（値）に対する評価」、「令和4年度以降の取組方針」、「令和4年度の目標（値）」について、点検及び評価を実施しました。



※桶川市第五次総合振興計画 後期計画 施策の体系より抜粋

目 次

1 令和3年度桶川市教育委員会事業体系			1
2 教育委員会の事務に関する点検評価結果（点検評価シート）			
課（館）	第五次総合振興計画の施策	事業名	
教育総務課	学校教育の充実	入学準備金貸付事業	3
		小学校整備事業	4
		中学校整備事業	5
学校支援課 （教育総務課）	学校教育の充実	ICT 教育推進事業	6
教育総務課 （学校支援課）	学校教育の充実	小・中学校給食業務	8
学校支援課	学校教育の充実	補助員配置事業	10
		学校図書館教育補助員配置事業	12
		英語指導助手配置事業	13
		教育相談事業	14
		いじめ防止推進事業	16
		中学校社会体験チャレンジ事業	17
		進路意識啓発事業（ふれあい講演会）	18
		ことばの教室事業	19
		桶川市発達障害・情緒障害通級指導事業	20
		学校応援団推進事業	21
		教職員の資質・能力の向上推進事業	22
	人権教育・啓発と平和の推進	学校教育における人権教育の推進事業	24
	学校教育の充実	主体的に行動できる能力を育てる環境教育事業	26
		福祉社会の実現を目指すボランティア・福祉教育事業	27
		小・中学校図書購入事業	28
学務課 学校支援課	学校教育の充実	就学援助事業	29
学務課	学校教育の充実	学校運営協議会の推進事業	31
		教職員の管理業務事業	32
		教職員の資質・能力の向上推進事業	33

生涯学習・スポーツ推進課	就学前教育の支援・充実	P T Aリーダー研修会	34
		P T A家庭教育講演会	35
		「親の学習」講座	36
	青少年の健全な育成	成人式典	37
		放課後子供教室事業	38
		青少年健全育成事業	40
	生涯学習・生涯スポーツの充実	生涯学習情報の提供	42
		職員出前講座	43
		市民大学の開催	44
		文芸桶川発行	46
		パソコン講習とサポート事業	47
		生涯学習推進体制の整備	48
		学習ボランティア推進事業	50
	人権教育・啓発と平和の推進	人権教育の推進	51
文化財課	文化・芸術の振興・保存・継承	指定文化財保存管理交付金及び文化財保存事業費補助金交付事業	53
		民俗芸能保存事業交付金交付事業	55
		指定文化財調査事業	57
生涯学習・スポーツ推進課	生涯学習・生涯スポーツの充実	管理運営事業	59
		図書館業務推進事業	60
	生涯学習・生涯スポーツの充実	スポーツ指導者育成事業	61
		スポーツ団体への支援事業	62
		スポーツ施設維持管理事業	64
公民館	就学前教育の支援・充実	幼児・家庭教育セミナー事業	66
	生涯学習・生涯スポーツの充実	講座開催事業	67
		公民館業務運営事業	68
文化財課（歴史民俗資料館）	生涯学習・生涯スポーツの充実	生涯学習センター管理事業	69
	文化・芸術の振興・保存・継承	資料調査・収蔵事業	70
		教育普及事業	71
3 点検評価報告書に対する意見			73

1 令和3年度桶川市教育委員会事業体系

※「桶川の教育」より

基本理念 「生きる力を育み未来へはばたく桶川の教育」

基本目標	基 本 事 業	ページ
Ⅰ 確かな学力の育成と質の高い教育環境の充実	① 学校教育への支援の充実	3, 29
	② 学校環境の整備・充実	4～6, 10, 14, 31
	③ 学校の組織運営の改善	31～33
	④ 小・中学校9年間を見通した一貫性のある学校教育の推進	22
	⑤ 一人一人の確かな学力を育む教育の推進	13, 22
	⑥ 時代の変化に対応する教育の推進	6, 13, 22, 26
	⑦ 主体的に進路を切り拓く力を育むキャリア教育の推進	18, 19
	⑧ 共生社会を支える特別支援教育の推進	19, 20
	⑨ 教職員の資質能力の向上	22, 25, 33
Ⅱ 豊かな心の育成と人権意識の高揚	① 「桶川市人権教育基本方針」の具現化	51
	② 社会教育における人権教育の推進	51
	③ 学校教育における人権教育の推進	24
	④ 豊かな心を育む教育の推進	22, 60
	⑤ 心豊かな児童生徒の育成を目指す生徒指導の充実	22
	⑥ いじめ・不登校の未然防止の推進	14, 16
Ⅲ 健やかな体（からだ）の育成	① 体力向上を目指した学校体育の充実	22
	② 食育の推進を通じた健康教育の充実	8, 22
	③ 家庭・地域と連携した安全教育・安全管理の推進	21
	④ 各種スポーツ団体への支援	62
	⑤ スポーツ・レクリエーション活動の普及	62, 69

Ⅳ 家庭・地域の教育力の向上	① 家庭教育の支援	34, 35, 36
	② 青少年健全育成の推進	40
	③ 地域・学校と連携した教育環境の整備	38
	④ 幼児・家庭教育セミナーの開催	66
	⑤ 学校応援団の充実	21
Ⅴ 生涯にわたる学びとスポーツの支援	① 学習情報の提供と学習相談体制の充実	42, 47
	② 学習機会の整備・推進	43, 46, 51, 71
	③ ライフステージに応じた市民との協働による学習の推進	37, 44, 47, 50
	④ ボランティアの育成と連携	27, 50
	⑤ 生涯学習推進体制の整備	48
	⑥ スポーツ推進委員の育成	61
	⑦ スポーツ・レクリエーション指導者の育成	61
	⑧ スポーツ・レクリエーション施設の整備	64
	⑨ 多様な学習や活動の機会の充実	59, 60, 67, 68
	⑩ 図書館サービスの充実	59, 60
	⑪ 読書会等の活動の支援・育成	60
	⑫ 歴史民俗資料館事業の充実	70, 71
Ⅵ 伝統文化・芸術の振興と文化財の保存・活用の推進	① 文化財保護事業の推進	57
	② 文化財保存事業の推進	53, 55, 70
	③ 郷土文化伝承活動の推進	71
	④ 博学連携事業の推進	71

施策の大綱	2 生きる力を育み次代に繋げる桶川をつくる		
施 策	学校教育の充実（202）		
基本事業	学校教育への支援の充実（2022）		
事業名	入学準備金貸付事業		
予算額	3,600,000 円	決算額	2,200,000 円

1 事業概要

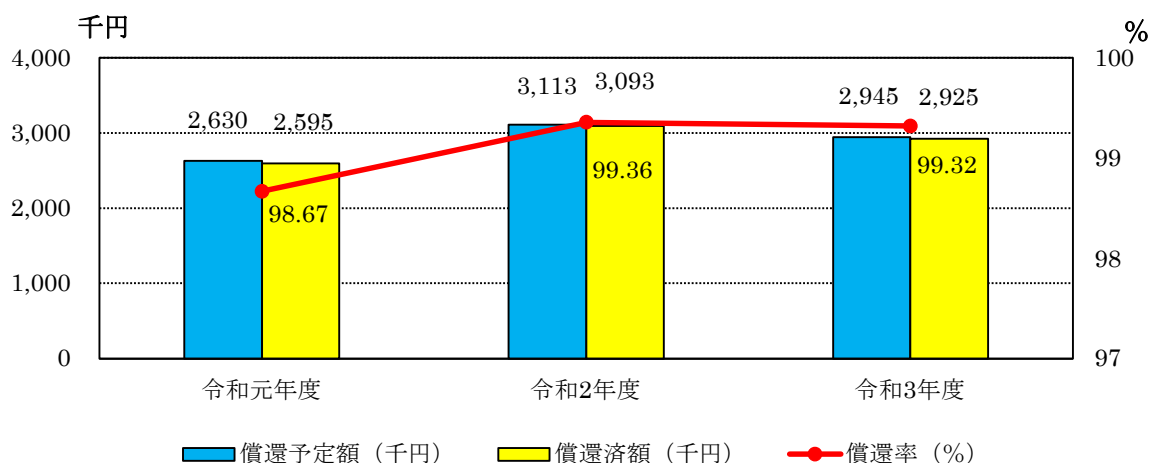
経済的に不安を抱える生徒の保護者に対して高等学校、大学、専門学校等への入学にかかる費用の貸付を行った。

2 事業実績

（1）貸付状況

年度	貸付金額	件数	内訳
R1	3,550,000 円	15	高校 12、専門学校 0、大学 3
R2	1,400,000 円	5	高校 1、専門学校 2、大学 2
R3	2,200,000 円	8	高校 2、専門学校 3、大学 3

（2）現年度償還分の状況



3 上記2に対する評価

- （1）貸付状況は、前年に続き少ない実績にとどまったことから、国や県の支援策が拡充されたことの影響と推測する。
- （2）現年度償還分は、未納となった時点で催告通知等の速やかな対応を講じ、前年と同程度の償還率を維持することができた。

4 今後の取組方針

- （1）制度内容や申請方法等について引き続き周知に努め、適切な支援を行う。
- （2）現年度償還分の未納については、引き続き速やかな対応を行う。
- （3）滞納繰越分については、訪問等により生活状況を把握し、完納に向けたきめ細やかな納付相談を行うとともに必要な調査を実施し、適切な処理を行う。

5 令和4年度の目標（値）

- （1）ホームページ掲載や市立中学校及び市内の県立高校に周知を行う。
- （2）現年度償還分の年度内完納並びに滞納繰越分の縮減

施策の大綱	2 生きる力を育み次代に繋げる桶川をつくる		
施 策	学校教育の充実（202）		
基本事業	学校施設の整備（2023）		
事業名	小学校整備事業		
予算額	17,368,000 円	決算額	17,365,641 円
1 事業概要 学校の教育力の維持向上のため、安心・安全で快適な学習環境を整備した。			
2 事業実績 （1）網戸設置工事（地方創生地域支援事業） 市内全小学校の体育館及び普通教室に網戸設置工事を実施した。 ・西側小学校網戸設置工事：4,967,033 円 （小学校4校 川田谷、桶川西、日出谷、朝日） ・東側小学校網戸設置工事：3,536,062 円 （小学校3校 桶川、桶川東、加納） （2）自動水栓設置工事（地方創生地域支援事業） 桶川小学校北校舎のトイレに自動水栓設置工事を実施した。 ・自動水栓設置工事：706,420 円 （3）施設維持工事等 学校施設の維持のため随時、工事等を実施した。（11件） ・漏水調査委託：209,000 円 （1件） ・工事費：7,947,126 円 （日出谷小学校放送設備改修工事 他9件）			
3 上記2に対する評価 （1）（2）感染症対策の実施や安全で快適な学習環境を確保するため、適切に施設維持工事等を行うことができた。 （3）緊急性や小学校の要望等を踏まえ、適時適切に施設維持工事等を進めることができた。			
4 今後の取組方針 「桶川市学校施設老朽化対策基本計画」に基づき、安心・安全な教育環境を確保するとともに、「新しい時代の学び」に対応していくため、教育環境の向上と老朽化対策の一体的な整備を推進する。			
5 令和4年度の目標（値） 「桶川市学校施設老朽化対策基本計画」の見直しを行うとともに、安心・安全・快適な教育環境を確保するため、適切に体育館の空調設備整備の設計及び施設維持工事等を行う。			

施策の大綱	2 生きる力を育み次代に繋げる桶川をつくる		
施 策	学校教育の充実（202）		
基本事業	学校施設の整備（2023）		
事業名	中学校整備事業		
予算額	9,946,000 円	決算額	9,695,305 円
1 事業概要 学校の教育力の維持向上のため、安心・安全で快適な学習環境を整備した。			
2 事業実績 （1）網戸設置工事（地方創生地域支援事業） 市内全中学校の体育館及び普通教室に網戸設置工事を実施した。 ・西側中学校網戸設置工事：2,434,867 円 （中学校2校 桶川、桶川西） ・東側中学校網戸設置工事：1,981,538 円 （中学校2校 桶川東、加納） （2）施設維持工事等 学校施設の維持のため随時工事を実施した。 （6件） ・工 事 費 : 5,278,900 円 （桶川中学校受変電設備フェンス改修工事他5件）			
3 上記2に対する評価 （1）感染症対策の実施や安全で快適な学習環境を確保するため、適切に施設維持工事等を行うことができた。 （2）中学校の要望等を踏まえ、適時適切に施設維持工事等を進めることができた。			
4 今後の取組方針 「桶川市学校施設老朽化対策基本計画」に基づき、安心・安全な教育環境を確保するとともに、「新しい時代の学び」に対応していくため、教育環境の向上と老朽化対策の一体的な整備を推進する。			
5 令和4年度の目標（値） 「桶川市学校施設老朽化対策基本計画」の見直しを行うとともに、安心・安全・快適な教育環境を確保するため、適切に施設維持工事等を行う。			

施策の大綱	2 生きる力を育み次代に繋げる桶川をつくる		
施 策	学校教育の充実（202）		
基本事業	知・徳・体の教育の充実（2021）		
事業名	ICT教育推進事業		
予算額	63,727,000 円	決算額	63,472,738 円

1 事業概要

学校におけるICT教育を推進するため、学校教育情報化推進委員会を中心に、ICT機器を効果的に活用した指導方法の研究を行った。

2 事業実績**(1) 学校教育情報化推進委員会（以下「推進委員会」）の運営**

令和3年度においては、各校より推進委員1人を選出し、1人1台端末の効果的な活用や、課題の共有および課題への対応の検討を行い、市内全校で共通理解を図った。

(2) ICT機器の活用と指導方法の工夫

ア 1人1台端末の導入、指導者用デジタル教科書や大型提示装置の活用により、ICT機器を効果的に活用した授業を実践した。

イ 1人1台端末活用に向け、大学講師を招へいした研修等を実施した。

令和3年度

	実施内容	実施時期
推進委員会	課題の共有、対応の検討等	6回実施 【5、7、9、11、1、2月】
教職員の研修	ICT機器活用研修等	13回実施：6回 外部講師【6、7、7、8、8、3月】 ：7回 市職員講師【4、4、7、7、8、10、3月】

3 上記2に対する評価

(1) 授業での端末の効果的な活用、端末を家庭に持ち帰っての活用、オンライン授業の試行・実施、不登校児童生徒への活用など、ICTを活用した新たな取組を共通認識のもと、市内全体でICTの活用を推進することができた。

校務の情報化の推進を行い、業務改善・効率化を図るため、学習系ネットワークと校務系ネットワークの連携等について検討し、就学児検診や職員会議などで活用した。

(2) ア 学校訪問において、全教員のICTを使った授業公開に対し、指導主事等が指導・助言を行うことで、教員がICT機器を効果的に活用する指導方法を学ぶことができた。ただし、教員間のICT活用の習熟度の差がある。

イ 夏季休業中を中心に習熟別、また教員の要望に応じた大学講師による研修を実施することにより、教員のICT機器活用指導力等を向上させることができた。

4 今後の取組方針**(1) 学校教育情報化推進委員会の運営**

ア 家庭での端末学習等、課題の共有、解決に向けての協議

イ 国や県の通知を考慮し、学校教育情報化の中・長期的計画の作成と実践

(2) 教員のICT機器の活用と指導力等の向上

ア ICT機器を活用した「主体的・対話的で深い学び」の授業・教材の共有

イ 児童生徒の情報モラル教育の充実を目指した教員の指導力向上

(3) ICT機器の効果的な活用

ア 不登校児童生徒に対して行うオンライン授業の課題等を共有、解決に向けて協議

イ 学校運営研究委員会を活用した、業務改善・効率化に向けた協議

5 令和4年度の目標（値）

（１）学校教育情報化推進委員会の実施（年５回）

（２）教員のＩＣＴ機器の活用と指導力等の向上

ア 共有フォルダの開設及びデータ保存（各校１学年１活用事例の保存）

イ 研修の実施（年４回）

（３）ＩＣＴ機器の効果的な活用

ア 遠隔教育やオンライン学習の実施方法の検討及び試行

イ 学校運営研究委員会との連携による業務改善・効率化の検討及び試行

	実施内容	実施時期
学校教育情報化推進委員会	課題の共有、対応の検討等 学校教育情報化の中・長期的な計画の作成と実践	年５回開催予定【５、７、９、１１、２月】
教職員の研修	ICT 機器活用研修等	年４回予定（６月～１月）
学校運営研究委員会	業務改善・効率化の検討・試行	年３回開催予定【５、１１、２月】

施策の大綱	2 生きる力を育み次代に繋げる桶川をつくる		
施 策	学校教育の充実（202）		
基本事業	学校教育への支援の充実（2022）		
事業名	小・中学校給食業務		
予算額	500,396,000 円	決算額	481,677,881 円
1 事業概要 安心・安全な給食を提供するため給食室の環境整備を行った。また、学校給食における献立作成・物資納入・調理までの一連の事業を計画し、安心・安全な給食を提供するとともに、食育の推進も図った。			
2 事業実績 （1）桶川市学校給食運営事業 ア 学校給食費と年間実施回数 小学校：月 4,000 円（1 食 234 円） 実施回数 年間 189 回 中学校：月 4,550 円（1 食 272 円） 実施回数 年間 184 回 イ 献立作成 桶川市学校給食運営委員会専門部会で、栄養教諭・学校栄養職員で構成される献立検討会を毎月 3 回実施し、地産地消の観点から地元産の食材を利用した献立作成に努めた。（地元食材 27.7% ※R3.11 月調査） ウ 桶川市学校給食運営委員会 専門部会（物資選定部会・献立作成部会・食育推進部会）についての報告を行い、日々の学校給食運営に関することの協議ができた。 （2）学校給食調理業務 学校給食調理業務委託（465,777,393 円） 給食物資の調達、物資納入業者との契約・指導、献立に基づく調理及び食器等の洗浄と適切な保管、給食室内の衛生管理等及び、学校給食食材の支払いを（公財）桶川市施設管理公社に委託した。 （学校給食調理事業 206,222,000 円、食材費 259,555,393 円） （3）学校給食用残牛乳の処分 学校給食用牛乳処分委託（2,123,000 円） （4）食育の推進 桶川西小・桶川小・桶川東小・朝日小の 4 校に栄養教諭を配置し、栄養教諭及び学校栄養職員を中心として全小・中学校で食育の推進事業を行った。 （5）給食室の環境整備 ア 学校給食用消耗品の購入（4,961,879 円） 市内小学校の学校給食用食器大椀、ろ過蛇口、その他給食関連消耗品 イ 調理作業備品等の更新（3,479,960 円） 消毒保管庫（1 校）、一槽フライヤー（1 校）、球根皮剥機（1 校） その他給食関連備品 ウ 調理作業備品等の修繕（1,648,724 円） 回転釜（6 件）、食器洗浄機（6 件）、野菜切機（4 件）、消毒保管庫（4 件）、シンク（3 件）、冷蔵庫（3 件）その他給食関連備品及び諸経費 エ 細菌検査・給食室に係る委託（3,686,925 円） 検査委託、設備保守、殺虫駆除消毒殺鼠防除、設備洗浄、グリストラップ清掃			
3 上記 2 に対する評価 （1）桶川市学校給食運営事業について ア 学校給食費と年間実施 年間を通じた学校給食を実施することができた。また、学校給食費を市で管理することにより会計の透明性をより一層向上させることができた。 イ 献立作成 地産地消の促進という観点から、できる限りの食材を地元から確保する努力を行い、令和元年より 2.8%増加した。（令和 2 年はコロナ禍のため調査実施なし）			

ウ 学校給食運営委員会

年3回の学校給食運営委員会を開催することができた。新型コロナウイルス感染症の感染防止を実施しながらの学校給食実施に関することや、食器購入にむけた意見交換を行うことができた。

(2) 学校給食調理業務について

ア 安全を一番に配慮することで、年間を通して給食を提供できた。

イ 学校給食調理業務委託

(ア) (公財) 桶川市施設管理公社との調整を経て、通常の学校給食の他、学校休業や学級閉鎖等の対応についても円滑に行うことができた。

(イ) 支払業務など事務処理についても、学校、(公財) 桶川市施設管理公社との連絡を充実させることにより、円滑な運営ができた。

(3) 学校給食用残牛乳の処分

学校給食用牛乳の処分量は、1日あたりに換算して5.6kg増加した。

これは、感染対策が継続して実施されたことにより残しやすい状況があり、さらに令和3年度は児童生徒の感染や濃厚接触者などによる発注を止めることができない急遽の欠席及び、学級閉鎖等が今まで以上にあったためである。

年間あたりの牛乳残量推移		
	残量(kg)	1日あたり(kg)
令和元年度	6,570	37.3
令和2年度	7,240	43.1
令和3年度	9,200	48.7

(4) 食育の推進

食育の指導については、「だしで味わう和食の日」の企画に参加し、和食文化の継承を目的とした献立を作成し、食育を推進した。また、地元産食材への理解を深める活動、郷土食をはじめとするふるさとへの理解を深める活動を行うことができた。

(5) 調理作業機器等の更新

老朽化した給食設備備品の更新を計画的に行うことができた。

4 今後の取組方針

- (1) 学校給食運営上の諸課題について検討し、改善を図る。
- (2) 安心・安全な食材の確保及び地産地消の促進を図る。
- (3) 学校給食費滞納者に電話・訪問等を行い、滞納の解消に努める。
- (4) 栄養教諭等と連携し、食育の授業の充実と質の向上を目指す。
- (5) 学校給食費について、学校給食摂取基準を満たし、安心・安全でおいしい給食を維持するための改定について、研究・検討を行う。

5 令和4年度の目標(値)

- (1) 地元産食材の割合を小・中学校平均で30%以上にする取組を行う。
- (2) 学校給食費徴収事務の効率化を図り、来年度より開始予定の市への直接納付に向けた準備をする。
- (3) 学校給食費滞納の解消に努め、当該年度については、年度内での徴収を行う。
- (4) 牛乳の飲み残しについて、感染防止対策の状況を鑑みながら、残量をコロナ禍以前の状況まで減らす取組を行う。

施策の大綱	2 生きる力を育み次代に繋げる桶川をつくる		
施 策	学校教育の充実（202）		
基本事業	知・徳・体の教育の充実（2021）		
事業名	補助員（会計年度任用職員）配置事業		
予算額	58,410,000 円	決算額	57,179,347 円

1 事業概要

児童生徒一人一人に応じたきめ細かな指導・支援の充実を図るため、各種補助員を小・中学校に配置した。

（1）教育指導補助員

全体指導をする教員に対して、児童生徒への個別指導等の補助を行った。

（2）日本語指導員

日本語が苦手な児童生徒の状況に応じて、授業内での日本語理解の補助を行った。

（3）小学校理科支援員

実験の準備・片付け、準備室の整理整頓等、理科授業の補助を行った。

（4）ICT支援員

教員が授業等でICT機器を活用する際の補助、児童生徒への対応を行った。

2 事業実績

（1）教育指導補助員 年間146日（1日5.5時間）

（2）日本語指導員 年間55日（1日4時間）

（3）小学校理科支援員 A 年間56日（1日4時間） 1校配置（桶川東小）

B 年間28日（1日4時間） 2校配置

（桶川小、加納小、川田谷小、朝日小、桶川西小、日出谷小）

（※配置期間 R3.5月～R4.1月）

（4）ICT支援員 A 年間150日（1日4時間） 1校配置（桶川東小）

B 年間75日（1日4時間） 2校配置

（桶川小、加納小、川田谷小、朝日小、桶川西小、日出谷小、桶川中、桶川西中、桶川東中、加納中）

（※年間勤務日数に研修8日を含む）

令和3年度市費対応による補助員数 単位：人（令和2年度人数）

	学校名	教育指導補助員	日本語指導員	小学校理科支援員	ICT支援員
1	桶川小学校	7(7)	1(0)	1(1)	1(1)
2	加納小学校	6(6)	—	1(1)	1(1)
3	川田谷小学校	3(4)	—	1(1)	1(1)
4	桶川西小学校	8(6)	1(0)	1(1)	1(1)
5	桶川東小学校	6(6)	—	1(1)	1(1)
6	日出谷小学校	5(5)	1(1)	1(1)	1(1)
7	朝日小学校	4(4)	—	1(1)	1(1)
8	桶川中学校	4(4)	—		1(1)
9	桶川東中学校	3(3)	0(1)		1(1)
10	桶川西中学校	3(3)	0(1)		1(1)
11	加納中学校	3(3)	—		1(1)
	合計	52(51)	3(3)	7(7)	11(11)

3 上記2に対する評価

- (1) 児童生徒数に応じて配置人数を変更した。個別に対応することで、きめ細かな指導、わかる授業を展開することができた。諸活動において複数の目による安全確認ができた。
通級指導教室において、指導を受ける児童生徒に対してきめ細かな支援を行うことができた。
- (2) 日本語指導が必要な児童生徒に積極的に関わることで、児童生徒の日本語対応能力が少しずつ向上し、安心して学校生活を送ることができたようだ。
- (3) 理科支援員が授業前の準備や授業後の片付けを率先して行ったことにより、理科担当教員が実験や作業を効率よく充実して行うことができた。準備室の片付けや備品管理、薬品管理簿の整理等の補助を行うことで、理科担当教員の負担を軽減することができた。
- (4) 児童生徒が授業で端末を使用する際、机間指導を行い、操作補助を行うことで教員が円滑に授業を進めることができた。
教員が端末を適切、かつ効果的に活用できるよう、支援することで、教員の活用技能を向上させることができた。

4 今後の取組方針

- (1) 1人1台端末の授業で効果的な活用を支援するため、ICT機器の活用スキルの習得を目指す。
- (2) 日本語指導が必要な児童生徒の状況を把握し、児童生徒のニーズに合った指導が行えるようにする。
- (3) 実験が多い単元での活用が図れるようにする。
- (4) 授業での効果的な活用が図られるように研修を実施し、スキルアップを図る。

5 令和4年度の目標(値)

- (1) 教育指導補助員に対して学校教育指導員による研修を年2回程実施する。
- (2) 学校と学務課との連携を密にし、日本語指導が必要な児童生徒の把握に努める。
- (3) 小学校の授業の実施に対するニーズを把握し、具体的な配置期間（5月～2月）決定する。
- (4) ICT支援員に対して学校教育指導員による研修を年8回程実施する。

施策の大綱	2 生きる力を育み次代に繋げる桶川をつくる		
施 策	学校教育の充実（202）		
基本事業	知・徳・体の教育の充実（2021）		
事業名	学校図書館教育補助員（会計年度任用職員）配置事業		
予算額	6,239,000 円	決算額	6,198,311 円

1 事業概要

学校図書館教育の充実、読書教育の充実を図るため、小・中学校に学校図書館教育補助員を配置した。

2 事業実績

市内全小・中学校に各1人、学校図書館教育補助員を配置した。

配置状況：年間112日（原則として週3日、1日5時間勤務）

（1）児童生徒への読書啓発

学校図書館教育主任等と連携して、児童生徒が興味関心をもつように、図書を紹介したり、貸し出し回数が多い図書を見やすい場所に置いたりするなど、読書啓発を行い、図書館利用者や図書貸出の増加に取り組んだ。あわせて、感染防止のために、閲覧者の人数を制限するなど工夫した。

（2）蔵書の修復や整理等の補助

図書除菌機を活用し、感染防止に努めながら蔵書の修復や整理業務を行った。

（3）研修の実施

学校図書館教育主任と共に学校図書館教育に係る研修会を実施し、学校図書館の環境整備の充実に努めた。年間2回実施予定であったが、まん延防止法が発令されたため1回の実施となった。（6月内容：各校の情報共有 2月内容：各校の取組報告（中止））

3 上記2に対する評価

（1）児童生徒への読書啓発

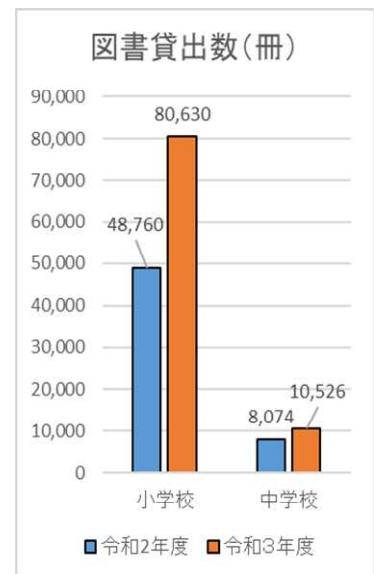
小・中学校の図書貸出数の合計は、令和2年度は臨時休業期間を除く9か月で56,834冊（6,315冊/月）、令和3年度は12か月で91,156冊（7,596冊/月）と前年度と比較して、60.0%（1,281冊増/月）増加させることができた。

（2）蔵書の修復や整理等の補助

寄贈や地方創生臨時交付金を活用し新規に図書を購入することでより蔵書数を増やすとともに、修復や整理等を計画的に行うことができた。

（3）研修の実施

コロナ対策を講じた上での学校図書館運営について、各学校の現状について情報共有することで、市内小・中学校間で共通認識をもつことができた。



4 今後の取組方針

（1）学校図書館を最大限に活用できるよう、それぞれの学校の取組を共有し、より児童生徒が利用しやすい環境を整えていく。

（2）図書館教育補助員の研修会を実施して、さらなる資質向上を図る。

5 令和4年度の目標（値）

（1）図書館の活用が進むように、図書の紹介や授業での活かし方など情報共有を図るなどして工夫し、貸出数がさらに伸びるようにする。

（2）学校図書館教育補助員の情報共有や資質の向上を目的として、2回の研修会を計画的に実施する。

施策の大綱	2 生きる力を育み次代に繋げる桶川をつくる		
施 策	学校教育の充実（202）		
基本事業	知・徳・体の教育の充実（2021）		
事業名	英語指導助手配置事業		
予算額	19,413,000 円	決算額	18,363,779 円
1 事業概要			
小学校に5人、中学校に2人の英語指導助手（ALT）を配置し、国際理解教育や外国語活動・英語教育の推進を図った。予算額が令和2年度より減額となったのは、コロナ禍による2か月の臨時休校の影響を受けての措置である。			
2 事業実績			
(1) 配置状況			
小学校 A：182 日（桶川西小学校週5日）			
B：179 日（桶川東小学校週5日）			
C：191 日（桶川小学校週4日：朝日小学校週1日）			
D：166 日（川田谷小学校週2日：日出谷小学校週3日）			
E：171 日（朝日小学校週2日：加納小学校週3日）			
中学校 F：177 日（桶川中学校、桶川西中学校）2週ずつ			
G：191 日（桶川東中学校、加納中学校）2週ずつ			
令和2年度から小学校で教科化され5，6年生では「外国語」となり、授業時数がそれぞれ年間35時間から70時間と大幅に増えたこと等を受け、令和3年度も引き続き7人を配置した。			
(2) 活動状況			
外国語、外国語活動、総合的な学習の時間等での指導補助について、英語科教員と連携して行った。新型コロナウイルス感染拡大防止に配慮しながら、休み時間、清掃等の時間においてもALTと児童生徒が交流し、外国語や外国の文化・生活に触れる機会を設け、国際理解教育を推進した。			
3 上記2に対する評価			
(1) ALTの配置を5月から行ったにもかかわらず、ALT1人につき小学校では165日以上、中学校では175日以上配置することができた。CとDのALTの配置を工夫することで加納小学校に週3日（令和2年度週2日）配置することができた。			
(2) 授業中常にマスクを着用するなど、話すことへの制約がある中ではあったものの、児童生徒の発達段階に応じた活動を取り入れることにより、外国語・英語に関する興味関心やコミュニケーションの意欲を維持することができた。			
埼玉県学力・学習状況調査 中学英語（ ）内は令和2年度			
	桶川市平均正答率	埼玉県平均正答率	
「聞くこと」領域 2年生	64.6% (69.1%)	64.6% (63.8%)	
「聞くこと」領域 3年生	65.4% (64.7%)	61.0% (61.3%)	
音声分野で、埼玉県と比較して同等、若しくは高い結果が報告されており、ALTの配置によるコミュニケーション活動の多い授業展開の成果といえる。			
4 今後の取組方針			
(1) 令和3年度より複数年の長期契約（3年）となったため、令和4年度は年度当初のALT不在の期間をなくし、4月より配置する。			
(2) 外国語活動研究委員会において、指導と評価の一体化に基づいたALTの効果的な活用を協議する。その提案により、年4回のALTミーティングを実施し、英語教育に係る指導助手の資質向上と教員との連携強化に努める。			
5 令和4年度の目標(値)			
(1) 小学校5人、中学校2人の185日以上安定した配置とする。			
(2) 埼玉県学力・学習状況調査の「聞くこと」の領域で、全学年が、県の正答率を3.0%以上、上回るようにする。			

施策の大綱	2 生きる力を育み次代に繋げる桶川をつくる		
施 策	学校教育の充実（202）		
基本事業	知・徳・体の教育の充実（2021）		
事 業 名	教育相談事業		
予 算 額	20,300,000 円	決 算 額	19,888,995 円

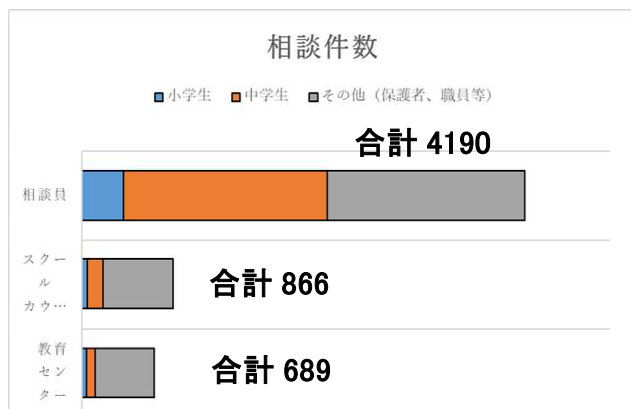
1 事業概要

児童生徒それぞれの発達に即して人間関係、生活適応、自己理解の力を育んだ。児童生徒の社会的自立を目指し、相談体制を整え、学校、関係機関と連携をした。

2 事業実績

（1）桶川市 相談件数（総数）

相談件数



	さわやか・スマイル相談員	スクールカウンセラー	教育センター相談員・カウンセラー
小学生	398	50	43
中学生	1924	154	88
その他 (保護者、職員等)	1868	662	558
合計	4190	866	689

〔関連事項. 市内小・中学校でのいじめの認知件数及び不登校児童生徒数〕

いじめの認知件数	R 2	小学校	89件	中学校	21件
	R 3		213件		51件
不登校児童生徒数	R 2	小学校	37人	中学校	63人
	R 3		32人		64人

（2）相談体制

- ア 市内11校に1人ずつ、相談員を配置した。(小学校 スマイル相談員/中学校 さわやか相談員)
- イ 桶川市教育センターにカウンセラーを2人、相談員を3人配置した。
- ウ スクールカウンセラーを小学校1人、中学校3人配置した。
小学校7校に年間11回ずつ勤務
中学校4校のうち2校には隔週で1日、他2校には毎週1日勤務
- エ 学校支援課にスクールソーシャルワーカー (SSW) を配置した。
スクールソーシャルワーカーの支援の対象となった児童生徒数
小学生 11人 中学生 15人 高校生 1人

3 上記2に対する評価

- (1) 相談事業について、様々な立場から、児童生徒と関わりを持つことができた。
- (2) ア 小学校全校にスマイル相談員を配置したことで、よりきめ細やかな対応や小学校から中学校への引継ぎができる体制を整えた。
- イ 児童生徒・保護者に対して個に応じた相談業務を行った。

ウ 児童生徒及び保護者の相談を受け、学級担任や養護教諭等との連携を迅速に図ることができた。

エ 課題をかかえる児童生徒及び保護者の様々な背景や状況をふまえつつ、学校からの訪問要請に適宜対応することができた。学校や児童生徒及び保護者を関係機関とつなぎながら支援を行うことができた。

4 今後の取組方針

(1) 教育相談事業の充実のために、資質の向上を目指す。

(2) 各相談機関と相談員の連携を密とする。相談体制のさらなる充実を目指し、各校の教育相談主任と相談員、教育センター相談員と指導員による情報共有及び研修会を実施する。

5 令和4年度の目標（値）

(1) 桶川市教育センター（高崎線東側）の設置計画を作成する。

(2) 不登校対策プロジェクトリーダー会議において、市内小中学校生徒指導主任を交えた研修を実施する。（年間2回）

※ スマイル相談員、さわやか相談員は、学校に配置の相談員。

※ 教育センター相談員・カウンセラーは、教育センターで相談業務を行う。

※ スクールカウンセラー（SC）は、小学校、中学校における児童生徒の心理に関する支援に従事する。週に1度の勤務（単独校配置）、隔週の勤務（2校配置）の場合がある。

※ スクールソーシャルワーカー（SSW）は、小学校中学校における児童生徒の福祉に関する支援に従事する。学校支援課に配置。

施策の大綱	2 生きる力を育み次代に繋げる桶川をつくる		
施 策	学校教育の充実（202）		
基本事業	学校教育への支援の充実（2021）		
事業名	いじめ防止推進事業		
予算額	1,220,000 円	決算額	1,044,800 円
1 事業概要			
いじめ防止等の施策推進のために、いじめ防止連絡協議会を開催し、市内におけるいじめ問題の現状の把握、委員の専門的知識及び経験から分析・検証を行うことでその対策を講じるいじめ対策委員会を開催した。			
2 事業実績			
(1) 各学校におけるいじめの早期発見といじめ解消を目指した取組の実施 ・学校生活アンケートの実施（児童生徒：学期1回、保護者：年1回） ・各学校における生徒指導研修会の実施			
(2) いじめ防止連絡協議会の開催（6,000 円） ・委 員…関係各課長、桶川市校長会長、桶川市教育センター所長、埼玉県中央児童相談所長、桶川市 PTA 連合会長、上尾警察署生活安全課長、桶川市青少年問題協議会委員（合計14人） ・開催日…第1回（7月16日）、第2回（2月15日：コロナのため書面実施） ・実 績…いじめ防止リーフレットを配付、桶川市いじめ防止等基本方針の見直し			
(3) いじめ専用ダイヤル ・実 績…教育センターの担当者が、いじめ専用の電話相談に対応した。			
(4) いじめ対策委員会及びいじめ調査委員会の開催（1,038,800 円） ・委 員…弁護士、臨床心理士、医師、大学教授等、教育長が必要と認めた者（合計5人）			
委員会名	開催回（○）及び開催日 ※ゴシックは同日開催		
ア：いじめ対策委員会	① 4月22日② 8月20日③ 10月28日		
イ：いじめ調査委員会	① 4月22日② 11月18日③ 2月17日④ 3月25日		
・実 績…ア：学校におけるいじめ防止等のための対策についての調査審議 イ：桶川市いじめ重大事態の調査及び調査結果の検証・分析・対応方法の検討 ※ 生徒、保護者、教職員への個別聴取についても適宜実施			
3 上記2に対する評価			
(1) いじめの積極的な認知と解消に向けた取組、解消後3か月の見届けを行うことができた。 ※令和4年3月現在 小中学校いじめ認知件数264件中158件解消 解消率59.8%			
(2) いじめ防止リーフレットを全家庭及び教職員に配付し、啓発及び相談窓口の周知が図られた。			
(3) いじめ専用ダイヤルの周知を図った。			
(4) 重大事態に対する第三者委員会の運営を事務局として適切に執り行うことができた。			
4 今後の取組方針			
(1) 引き続きいじめの早期発見に努め、組織的で迅速な初期対応について管理職を中心に指導する。			
(2) 「桶川市いじめ防止等基本方針」の見直しを行う。			
(3) いじめ専用ダイヤルの存在についての周知・啓発を継続する。			
(4) いじめ重大事態についての調査を完結させる。委員の専門性を活かした視点から、いじめに対する組織的対応のありかたを協議する。			
5 令和4年度の目標（値）			
(1) 積極的ないじめの認知をもとに、「見逃しゼロ」を目指す。			
(2) 「桶川市いじめ防止等基本方針」を改訂し、市内各小・中学校へ周知する。			
(3) いじめ専用ダイヤルについて、市内小・中学校HPへ掲載し周知・啓発を図る。			
(4) 現在起きているいじめ重大事態について、事実関係を明らかにする。			

施策の大綱	2 生きる力を育み次代に繋げる桶川をつくる		
施 策	学校教育の充実（202）		
基本事業	知・徳・体の教育の充実（2021）		
事業名	中学生社会体験チャレンジ事業		
予算額	221,000 円	決算額	0 円
1 事業概要 生徒が望ましい職業観や公平な社会性への理解を深めるとともに、進路指導・キャリア教育の充実を図るため、全中学校で生徒の職場体験を行う。			
2 事業実績 ※新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止			
3 上記2に対する評価 ＊＊＊＊＊			
4 今後の取組方針 （１）中学生社会体験チャレンジ事業推進委員会や事業所等からの意見や情報を、さらなる事業の充実に役立てていく。 （２）年２回の事業推進委員会において、桶川市商工会、桶川市青年会議所等との連携を深め、市内及び近隣市の事業所に対して本事業への理解の促進をお願いし、新規受入れ事業所を確保する。			
5 令和４年度の目標(値) （１）４校終了後に、受け入れ事業所等に、アンケートを実施し翌年度に反映する。 （２）受け入れ事業所の新規開拓をする。			

施策の大綱	2 生きる力を育み次代に繋げる桶川をつくる		
施 策	学校教育の充実（202）		
基本事業	知・徳・体の教育の充実（2021）		
事業名	進路意識啓発事業（ふれあい講演会）		
予算額	40,000 円	決算額	40,000 円
1 事業概要 進路指導の一環として、生徒や保護者の進路意識を啓発するために「ふれあい講演会」を実施し、地域で活躍する職業人の講演を聞く機会を提供した。			
2 事業実績 各中学校の実施内容（全生徒対象）			
学 校 名	講 師	実施日	内 容（講演・演題）
桶 川 中	陸上三段跳び選手 長谷川 大悟 氏	1 1 月 2 6 日	目標を持つこと、達成することの大切さ、体験談
桶川東中	ヴァイオリニスト 式町 水晶 氏	1 1 月 1 9 日	「夢を持つことの大切さ奇跡～次の奇跡への挑戦」
桶川西中	東邦音楽大学特任教授 荻久保 和明 氏	2 月 8 日	これからの学生生活で大切にすべきこと、体験談
加 納 中	大学生・パラリンピアン 友野 有理 氏	2 月 2 8 日	「自分らしく生きるために」
3 上記2に対する評価 （1）様々な経験をもつ様々な立場の人の講演をとおして、「生きること」について触れ、改めて進路について自分自身で考える契機とした。 （2）夢を実現するために努力することの大切さ、困難に対し前向きに取り組む姿を生徒一人一人に伝えることができた。 （3）生徒が「どう生きるか」について考え、進路意識の啓発・高揚を図ることができた。			
4 今後の取組方針 桶川市生涯学習・スポーツ推進課、県教育委員会講師派遣制度や JICA 等の団体等とも連携し、今後も継続していく。また、非常時にオンラインの講演を実施していく。			
5 令和4年度の目標(値) 学校と連携し、講師の紹介等をしながら、市内4中学校で実施する。			

施策の大綱	2 生きる力を育み次代に繋げる桶川をつくる		
施 策	学校教育の充実（202）		
基本事業	知・徳・体の教育の充実（2021）		
事業名	ことばの教室事業		
予算額	1,524,000 円	決算額	1,523,760 円

1 事業概要

ことばの発達に課題のある児童生徒や保護者に対して、専門的な指導や相談を行った。

2 事業実績

開設日数 71日 開設時間 午後1時～5時
 通級児童生徒数 小学生44人 中学生0人
 うち新規11人 終了18人

(1) 児童生徒への言語指導

ア 「ことばやきこえ」の発達を支援するため、桶川西小学校内に桶川市ことばの教室を設置し、言語聴覚士による専門的な指導を行った。

イ ことばを増やすための指導や正しい発音へと導く指導等、児童生徒一人一人の状態に応じた適切な個別指導を行った。

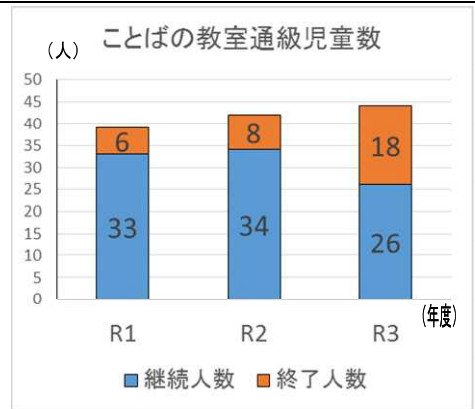
ウ 保護者の希望により、児童生徒の言語指導への理解を共有し、保護者からの相談に対応した。

(2) 保護者の相談対応 8件（令和2年度7件）

通級前に保護者の不安や児童生徒の現状、ことばの教室を利用するかどうかも含めた今後の方向性についての相談を受けた。（相談後は「ことばの教室への通級」もしくは、「相談のみで終了」となった。）

(3) 言語指導に係る学校との連携

対象となる児童生徒の在籍校における特別支援教育コーディネーター及び学級担任に対して指導の充実が図られるよう連絡会を実施した。また、初任者教員に対してのことばの教室に関する研修を行った。

**3 上記2に対する評価**

(1) 言語聴覚士による専門的な指導により、言葉の発音（構音、吃音、発達遅滞）等において困難さを抱えている児童生徒に適切な指導や支援を行うことができた。随時入級や相談が出来、指導をすぐに開始できる体制であることは、指導の効果をより高めている。保護者と児童生徒の現状や通級での指導を共有することで「ことばの教室」での指導を充実させることができた。

(2) 保護者の不安や児童生徒の現状について相談を受けた際、専門的な立場から助言をすることができた。学校や担任から伝えることが難しいケースも専門家として、教育センターや医療機関等へとコーディネートすることができた。

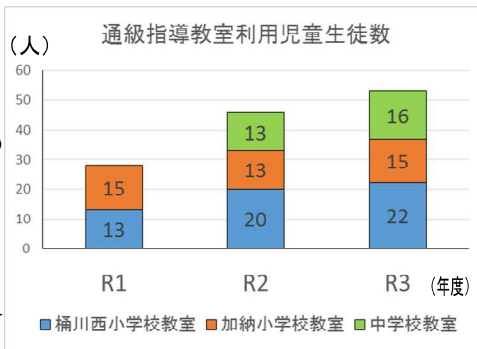
(3) 在籍校との連絡会や初任者教員に対しての研修について、感染対策を十分に行った上で実施することができた。連絡会については、情報共有の機会を設けたことで、児童理解やその後の指導の充実につなげることができた。また、初任者への研修については、ことばの発達に課題のある児童生徒への理解を深めることができた。

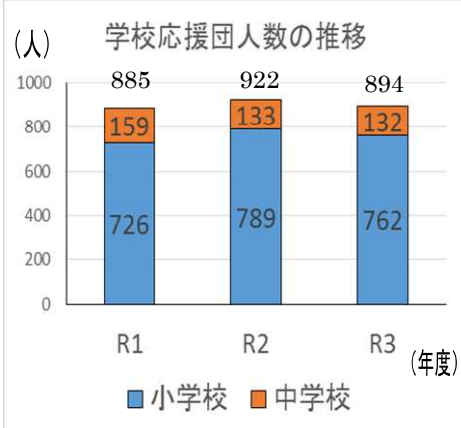
4 今後の取組方針

「ことばやきこえ」の発達に関する保護者や児童生徒等からの相談・指導に応えるために、継続していくとともに、教職員一人一人がことばの発達に課題のある児童生徒に対して、適切な対応ができるように、一層の理解促進に努める。

5 令和4年度の目標（値）

児童生徒への言語指導、初任者に対する研修等について、新型コロナウイルス感染症対策を十分に行いながら実施を継続していく。採用後10年次までの教員に対して、ことばの発達に課題のある生徒への理解を深める機会として、言語聴覚士を講師とした研修会を設ける。

施策の大綱	2 生きる力を育み次代に繋げる桶川をつくる																		
施 策	学校教育の充実（202）																		
基本事業	知・徳・体の教育の充実（2021）																		
事業名	桶川市発達障害・情緒障害通級指導事業																		
予算額	60,000 円	決算額	60,000 円																
1 事業概要 通常の学級に在籍する発達障害や情緒障害がある児童生徒に対し、障害の改善または克服に向けた特別な指導及び必要な教育支援を行った。																			
2 事業実績 通級指導教室の利用状況（通級指導教室利用児童生徒数） 令和3年度 53人（桶川西小教室22人、加納小教室15人、中学校教室16人） ※中学校の設置教室は、桶川中学校教室、桶川東中学校教室、加納中学校教室 ※中学校の利用者数は、桶川中学校教室9人、桶川東中学校教室4人、加納中学校教室3人 （1）個別指導及びグループ学習の実施 （消耗品費：60,000 円） 学习上または生活上の困難を改善・克服するための個別指導や少人数のグループ学習を実施した。 （2）在籍校訪問の実施 学期に1回通級指導教室担当教員が通級利用児童生徒の在籍校を訪問し、児童生徒の行動観察及び在籍校担任との情報交換を行った。																			
 <table border="1"> <caption>通級指導教室利用児童生徒数</caption> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>桶川西小学校教室</th> <th>加納小学校教室</th> <th>中学校教室</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>R1</td> <td>13</td> <td>15</td> <td>0</td> </tr> <tr> <td>R2</td> <td>20</td> <td>13</td> <td>13</td> </tr> <tr> <td>R3</td> <td>22</td> <td>15</td> <td>16</td> </tr> </tbody> </table>				年度	桶川西小学校教室	加納小学校教室	中学校教室	R1	13	15	0	R2	20	13	13	R3	22	15	16
年度	桶川西小学校教室	加納小学校教室	中学校教室																
R1	13	15	0																
R2	20	13	13																
R3	22	15	16																
3 上記2に対する評価 （1）個別指導において、学习上又は生活上の困難さを克服するための学習を行うことで、通常の学級の授業に参加する力や通常の学級に適応する力を向上させることができた。グループ学習については、新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から、ほとんど行わなかったが、児童の実態や時間割の関係で実行可能な一部の児童がオンラインでのペア学習を行い、個別学習で学んだことを生かす機会を設けることができた。 （2）学期に1回、在籍校訪問を行うことで通級利用児童生徒の在籍校での様子を把握することができるとともに、担任と情報交換を行うことができた。そのことで、通級担当者、在籍校担任とともに、当該児童生徒の現状と課題に対して適切な指導が可能となった。																			
4 今後の取組方針 （1）特別な配慮を必要とする児童生徒の数は増加傾向を示している。課題を抱える児童生徒に寄り添った通級指導教室の運営ができるよう環境整備を推進していく。 （2）児童生徒の障害の状況に応じて効果的な指導ができるよう、教員の専門性の向上を推進していく。 （3）通級指導教室の指導者を計画的に育成していく。																			
5 令和4年度の目標（値） （1）教育委員会及び各通級指導教室間での連携を図る機会を設け、効果的な体制の構築、環境整備の充実を目指す。 （2）通級指導教室担当教員と通級児童生徒の在籍校教員の連携を深めるため、年度当初に通級指導教室説明を実施するとともに、学期に1回の在籍校訪問を実施する。 （3）通級指導教室担当で授業研究会を実施する。																			

施策の大綱	2 生きる力を育み次代に繋げる桶川をつくる																		
施 策	学校教育の充実（202）																		
基本事業	学校教育への支援の充実（2022）																		
事 業 名	学校応援団推進事業																		
予 算 額	900,000 円	決 算 額	895,500 円																
1 事業概要																			
学校が家庭や地域との連携を図り、学校運営を支援する体制づくりを推進した。																			
2 事業実績																			
市内全小・中学校に学校応援団が設置され、各校の計画に応じて、学校支援活動が行われた。令和3年度の人数は令和2年より微減の894人であった。																			
(1) 学校支援活動の内容																			
ア 小学校7校																			
(ア) 安心安全への支援：登下校の安全確保、防犯パトロール																			
(イ) 学習活動への支援：図書室の環境整備、本の読み聞かせ、掲示物の作成、学習の補助																			
(ウ) 環境整備への支援：ペンキ塗りや花壇・植木の剪定・除草等																			
イ 中学校4校																			
(ア) 安心安全への支援：通学路点検、不審者注意ののぼり設置																			
(イ) 環境整備への支援：学校の環境整備のための作業や花壇や植木の剪定・除草等																			
(2) 学校応援団事務局の活動																			
ア 学校応援団実行委員会																			
例年実施しているが、令和3年度は新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から、中止とした。																			
イ 活動報告書の作成																			
 <table border="1"> <caption>学校応援団人数の推移</caption> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>小学校 (人)</th> <th>中学校 (人)</th> <th>合計 (人)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>R1</td> <td>726</td> <td>159</td> <td>885</td> </tr> <tr> <td>R2</td> <td>789</td> <td>133</td> <td>922</td> </tr> <tr> <td>R3</td> <td>762</td> <td>132</td> <td>894</td> </tr> </tbody> </table>				年度	小学校 (人)	中学校 (人)	合計 (人)	R1	726	159	885	R2	789	133	922	R3	762	132	894
年度	小学校 (人)	中学校 (人)	合計 (人)																
R1	726	159	885																
R2	789	133	922																
R3	762	132	894																
3 上記2に対する評価																			
(1) 学校支援活動の内容																			
安心安全への支援では、登下校時の児童生徒を見守ることで安全の確保、事故防止につながった。また、不審者対応など、地域の防犯ができた。小学校における学習活動への支援では、新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から、実施が難しい活動もあったが、学校の感染状況を踏まえて、感染対策や活動方法を工夫しながら、児童と直接触れ合う学習補助等を行うことができた。中学校における環境整備への支援では、感染対策を行った上で、生徒と一緒に除草作業を行うことができた。																			
(2) 学校応援団事務局の活動																			
各学校応援団の取組を活動報告書にまとめ、市ホームページに掲載し、周知することができた。																			
4 今後の取組方針																			
(1) 学校応援団の役割を明確にし、学校との連絡体制を確立する。																			
(2) 学校応援団実行委員会での意見交換や実績報告をより充実させる。																			
(3) 各学校の活動が、学校応援団コーディネーターを中心に行われるように事業を推進する。																			
5 令和4年度の目標（値）																			
(1) コミュニティ・スクールとの連携を図る。																			
(2) 新型コロナウイルス感染防止の観点を踏まえ、活動内容の見直し、精選に取り組む。																			
(3) 学校応援団事務局主催の研修を実施する。																			

施策の大綱	2 生きる力を育み次代に繋げる桶川をつくる		
施 策	学校教育の充実（202）		
基本事業	学校教育への支援の充実（2022）		
事業名	教職員の資質・能力の向上推進事業		
予算額	2,583,000 円	決算額	2,470,000 円

1 事業概要

教職員の資質・能力の向上に向け、研修会の開催、学校訪問時の学習指導や学校課題研究への支援などを行った。

2 事業実績

（1）市教育委員会主催研修会等（0 円）

項 目	実施時期	内 容	参加対象者
桶川市教育講演会	8月19日	「GIGAスクール構想のねらいと1人1台端末の効果的な活用」 文部科学省ICT教育アドバイザー 三井一希氏	全教職員 (オンライン)
初任者育成授業研究会	1学期、3学期	教員として授業実践を通しての資質の向上	初任者教員(8名)
体力向上推進研修会	7月9日 12月1日	コロナ禍における体育授業のあり方及び体力づくり活動やその指導方法等の内容の充実・改善	体育主任等 (13名)
学校保健研修会	7月6日、12月3日、3月9日	コロナ禍における学校の保健衛生管理について及び心身の健やかな発達を促進するための指導の在り方	養護教諭等 (14名)
道徳教育研修会	7月29日	「主体的・対話的で深い学び」となる道徳科の授業展開の工夫	道徳主任・道徳教育推進教師(16名)
給食指導法研修会	7月29日	食育の充実に係る指導力向上	栄養教諭等(14名)
ICT機器活用研修会	7月21日、26日、 8月23日、24日、 1月27日	端末の活用及び情報モラル教育等について	情報教育担当教諭等(延べ120名)

※中止とした研修会…生徒指導・教育相談中級研修会、小学校外国語活動研修会、人権教育研修会（担当者・管理職）

（2）学校訪問（20,000 円 講師謝礼） 2,000 円×10 人

南部教育事務所の協力を得て、各学校を各1回訪問し、教育課程、学習指導、その他学校運営に係る専門的事項について指導・助言を行った。

（3）学校課題研究（2,450,000 円） 研究1年目130,000 円：3校 2年目215,000 円：4校 3年目（本発表）300,000 円：4校

小・中学校全校に交付金を交付し、研究を支援した。本発表校には、研究発表会の開催に至るまでの支援や全体会での指導講評を行った。また、各学校の学校課題研究に指導主事が訪問したり、外部から講師を招いたりして研究に係る指導・助言を行った。

【令和3年度 学校課題研究一覧】

学 校 名	研究領域	研究主題等	備 考
桶川西小学校	教科(国語)	国語科における豊かな表現力の育成	研究1年目
加納小学校	教科(算数)	確かな学力を身につけ、わかる楽しさできる喜びを味わい、生き生きと学ぶ児童の育成	研究1年目
川田谷小学校	学習指導・学力向上	主体的に学習に取り組む児童の育成 ～国語・算数の学習活動の工夫を通して～	本発表（令和3年 11月25日）

桶川東小学校	教科(国語)	論理的に文を読み取ることができるけやきっ子の育成 ～児童が楽しく学び合い、「わかる・できる」授業づくり～	本発表(令和3年10月29日)
日出谷小学校	学習指導・学力向上	教師がときめき 児童がきらめく 授業づくり	研究2年目
朝日小学校	特別活動	互いの思いを認め合い、自信をもって表現する朝日っ子 ～気持ちを伝え合う力を育てる特別活動の工夫・改善～	研究2年目
桶川小学校	教科(国語)	自分の考えを持ち 生き生きと交流する 児童の育成 ～「伝えたい」を高める授業づくり～	本発表(令和3年10月22日)
桶川中学校	学習指導・学力向上	「深い学び」へと導く授業の在り方を目指して ～主体的な学びを通じた表現力の育成～	本発表(令和3年11月24日)
桶川東中学校	学習指導・学力向上	「できた、わかった、楽しい」を味わわせる学習指導の質的改善 ～主体的・対話的で深い学びを通して～	研究2年目
桶川西中学校	学習指導・学力向上	主体的・対話的で深い学びによる学習活動の充実 ～ICTの活用を取り入れた授業実践を通して～	研究1年目
加納中学校	道徳教育	対話を通してより良い生き方を考えることができる生徒の育成	研究2年目

※ 桶川西中学校は「埼玉県道徳教育研究推進モデル校」委嘱を受け、令和3年11月26日に研究発表を実施。「豊かな心を育む道徳教育の充実～「考え、議論する」道徳の実践を中心として～」

3 上記2に対する評価

(1) 市教育委員会主催研修会等

コロナ禍ではあるが、開催方法等を工夫し、数多くの研修会等を実施することができた。オンライン研修会が講義形式であれば参集型と同等の効果が得られたと評価できる。各種研修会を通じて、教職員の資質・能力の向上に資することができた。

(2) 学校訪問

専門性の高い教科等指導員や外部指導者の招へいを積極的に行い、質の高い指導を行うことで教職員の資質・能力の向上につなげることができた。授業や指導案について細やかにフィードバックし、教職員の実態に合った指導力向上の手立てを伝えることができた。コロナ禍での実施に際し、工夫・改善を思考しながら、学校訪問を行うことができた。

(3) 学校課題研究

コロナ禍のため、本発表の学校に多くの教員を集めることはできなかったが、各学校が工夫を凝らし、児童生徒の学力向上を目指した研究を行った。話し合い活動などに制限がある中、ICT等新しい指導法の研究を行い、教職員の指導力向上に努めることができた。

4 今後の取組方針

(1) 必要な研修内容・実施方法を精査し、効果的な研修を計画・実施する。

(2) 指導主事等による指導・助言を行うことで、教職員の資質・能力の向上を図る。

(3) 学校の全教職員が組織的に研究に取り組むことができるよう、3年間を見据えた支援を行う。

5 令和4年度の目標(値)

(1) GIGAスクール構想により整備された1人1台端末の活用推進に重点をおき、その他研修会についても内容の精選を進め、より効果的な研修会を行う。

(2) 学校訪問に関しては、児童生徒の健康・安全を最優先としつつ、教職員の資質・能力の向上をめざして、工夫・改善しながら、内容をさらに充実させていく。

(3) 研究課題と結び付けた振り返りの視点を、具体的に指導・助言することで、研究の成果が実感できるよう支援する。

施策の大綱	2 生きる力を育み次代に繋げる桶川をつくる		
施 策	人権教育・啓発と平和の推進（205）		
基本事業	人権教育の推進（2051）		
事 業 名	学校教育における人権教育の推進事業		
予 算 額	192,000 円	決 算 額	191,400 円
1 事業概要			
学校の教育活動全体を通じて、主体的に人権課題を解決しようとする児童生徒を育成するため、教職員の研修を実施し、各学校の人権教育推進体制の充実を図った。			
2 事業実績			
(1) 各学校における人権教育推進体制の充実			
(2) 人権作文の募集と文集「かがやき」の発行（191,400 円）			
(3) 教職員の研修			
ア 桶川市人権教育担当者研修会 令和3年8月5日			
(ア) DVD 視聴「武州鼻緒騒動～差別に立ち向かった人々～」			
(イ) 同和問題と部落差別解消法について			
(ウ) 情報交換			
イ 桶川市立小・中学校管理職等人権教育研修会 令和4年2月22日			
新型コロナウイルス感染症の拡大および蔓延防止法の発令により中止			
3 上記2に対する評価			
(1) 各学校で人権教育の全体計画を作成し、各教科等の年間計画に位置付けることができた。また、「人権感覚育成プログラム」を年間計画に位置付け、実践することができた。いじめ問題、児童虐待について対応する組織を充実させ、学校教育での推進体制の充実を図ることができた。			
(2) 各学校で人権作文に取り組み、児童生徒の人権意識の高揚を図ることができた。人権作文は4,651件の応募があった。人権作文の文集「かがやき」を発行し、全児童・生徒に配付し、活用を促し、人権に対する意識を高めることができた。			
(3) 研修については、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、DVD視聴を中心に同和問題を取り上げることの意義について議論し理解を深め、また、情報交換により各学校の取組について共有を図ることができた。			
4 今後の取組方針			
(1) 学校における身近な人権問題、現在の社会を取り巻く人権問題に焦点をあて、教員の人権感覚を醸成し、学校における人権教育の推進を図る。			
(2) 人権作文の文集「かがやき」の発行を、身近な人権に目を向ける機会とし、意識を高める契機とする。			
(3) 同和問題、新型コロナウイルス感染に関する差別など各種人権課題について、教職員研修を通して理解を深める。特に経験の浅い教職員に対しての研修を計画的に行う。			
5 令和4年度の目標（値）			
(1) 学校における人権問題について、夏季休業中の学校研修で活用してもらうため、研修用DVDを作成し、配付する。			
(2) 人権作文集「かがやき」発行を継続し、児童生徒の人権意識の高揚を図る。			
(3) 人権教育担当者研修会では現地研修会を実施し、人権教育に関する理解を深める。管理職等人権教育研修会は、昨年度、中止となった内容「差別の現実から学び、教育実践へ」で講義を行う。			

※ 用語の説明

- ① 人権問題…人権が侵害される、または、人権が尊重されない状態のこと
- ② 人権課題…日本国内の主な人権課題（法務省ホームページより）
 - （１）女性（２）子ども（３）高齢者（４）障害のある人（５）同和問題
 - （６）アイヌの人々（７）外国人（８）HIV感染者・ハンセン病患者等
 - （９）刑を終えて出所した人（１０）犯罪被害者
 - （１１）インターネットによる人権侵害（１２）ホームレス
 - （１３）性的指向（１４）性同一性障害者
 - （１５）北朝鮮当局によって拉致された被害者等（１６）人身取引
- ③ 現地研修 同和地区等を訪問し、差別の実態を学ぶ研修

施策の大綱	2 生きる力を育み次代に繋げる桶川をつくる		
施 策	学校教育の充実（202）		
基本事業	学校教育への支援の充実（2022）		
事業名	主体的に行動できる能力を育てる環境教育事業		
予算額	0円	決算額	0円
1 事業概要 児童生徒が主体的に環境問題について考え、環境を守ろうとする意識や態度を育成するための環境教育を推進した。			
2 事業実績 （1）各学校において、環境教育の全体計画や年間指導計画を作成し、指導を行った。 （2）小学校の校外学習で利用する埼玉県自然学習センター等の事業を紹介するとともに、環境に関わる事業を紹介し環境教育の充実を図った。 （3）各校へゴーヤ苗を配付しグリーンカーテンの取組を実施した。また、県事業の「エコライフDAY」について、令和3年度は、紙の配付をせず、実施方法をクラウド上での回答に変更し、意識啓発を図った。			
3 上記2に対する評価 （1）児童生徒が密集しての観察・実験に制限がある中、感染防止対策をとりながら教育課程を工夫して環境教育を行い、児童生徒が、身近な環境について、課題意識をもつよう取り組むことができた。 （2）埼玉県自然学習センターとの連携した授業や、埼玉県環境教育アシスタントを活用した環境教育の授業については、新型コロナウイルス感染状況の影響により実施することができなかった。 （3）ゴーヤのグリーンカーテンはよく成長しており児童の喜ぶ姿が見られた。県事業「エコライフDAY」については、外出等の制限があり在宅の時間が増える中ではあったが、継続して、意識啓発を図ることができた。			
4 今後の取組方針 総合的な学習の時間や理科の授業における環境教育の実践をより充実できるよう、外部人材の活用も含め、教育委員会と連携を図ることで、ごみ減量化への意識を醸成していく。			
5 令和4年度の目標（値） （1）桶川市教育研究会理科部会にて、埼玉県環境教育アシスタントや埼玉県自然学習センターを活用したごみ問題に関する授業提案を行い、各校において、授業実践をする。			

施策の大綱	2 生きる力を育み次代に繋げる桶川をつくる		
施 策	学校教育の充実（202）		
基本事業	知・徳・体の教育の充実（2021）		
事業名	福祉社会の実現を目指すボランティア・福祉教育事業		
予算額	0円	決算額	0円
1 事業概要 発達段階や地域の実態に応じたボランティア・福祉体験活動の推進を図る。			
2 事業実績 （１）各学校において、教科及び道德・特別活動・総合的な学習の時間、委員会活動等を活用し、ボランティア・福祉教育の全体計画を策定するよう助言した。 （２）例年行っている取組等 ア 実施した取組 ○認知症サポーター講座 朝日小学校 ４年生 イ 新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から中止となった取組 ○春のふれあいフェスタへの参加 ○中学校社会体験チャレンジ事業における介護施設への職場体験 ○桶川市社会福祉協議会主催のボランティア見本市への中学生の参加 ○桶川西小学校において実施予定であった認知症サポーター講座			
3 上記２に対する評価 （１）各学校における車いす体験等の福祉に関する学習、赤い羽根等の募金活動などを通して、児童生徒が発達段階に応じて、社会福祉への関心と理解を深めることができた。 また、ベルマークやペットボトルキャップ等、使用済みはがきの収集活動を行う学校もあり、ボランティア活動の推進を図ることができた。 （２）様々な福祉に関する行事やイベントが、新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から令和２年度同様中止になり、体験的な活動をする機会を設けることが難しかった。 唯一実施した認知症サポーター講座では、認知症とはどういうものか、認知症の人と接する時の心がまえ、認知症介護をしている人の気持ちを知るなど、児童の認知症に対する理解を深めることができた。			
4 今後の取組方針 （１）これからの社会を見据えた福祉教育の計画・実践の指導・助言を行う。 （２）新型コロナウイルス感染防止対策を行った中でできる体験的な活動の情報提供を行う。			
5 令和４年度の目標（値） （１）各学校において、発達段階に応じた福祉教育の充実に向け、新型コロナウイルス感染症防止の中、全体計画・年間計画の工夫を行う。 （２）発達段階に応じたボランティア活動・福祉体験の一層の充実を図る。また、感染対策を行ったうえで、児童生徒の社会福祉への関心と理解を深めていけるように実施可能な取組の情報提供を積極的に行う。			

施策の大綱	2 生きる力を育み次代に繋げる桶川をつくる		
施 策	学校教育の充実（202）		
基本事業	学校教育への支援の充実（2022）		
事業名	小・中学校図書購入事業		
予算額	1,860,000 円	決算額	1,857,190 円

1 事業概要

児童生徒に本を選んで読む経験や読書に親しむきっかけを与える学校図書館の図書購入を行った。

2 事業実績

小・中学校 1,860,000 円の予算を各学校に配当し、小学校で 997,584 円、中学校で 859,606 円の図書を購入した。

＜過去3年間の充足率の推移＞

	標準達成率（％）		
	令和元年度	令和2年度	令和3年度
小学校全体	98.9	100.7	107.0
中学校全体	103.5	103.2	108.1

※公立義務教育諸学校の学級数に応じて学校図書館に整備すべき蔵書の標準として平成5年3月に文科省が定めた数値。

＜令和3年度小・中学校別図書室蔵書数等＞

学校名	※学校図書館図書標準冊数（A）	増加冊数 （購入、寄付等）	廃棄冊数	現有冊数（B）	標準達成率（C） （C）=（B）/（A）
全学校	117,240	8,032	1,376	126,677	107.4%
小学校全体	70,040	6,085	761	75,128	107.0%
中学校全体	47,200	1,947	615	51,549	108.1%
桶川小	10,960	289	44	12,418	113.3%
桶川西小	11,760	238	317	12,395	105.4%
加納小	8,760	707	0	8,667	98.9%
川田谷小	7,480	248	350	8,005	107.0%
桶川東小	12,160	886	0	12,016	98.8%
日出谷小	9,960	3,436	0	11,983	120.3%
朝日小	9,160	281	50	9,644	105.3%
桶川中	12,160	240	200	14,181	116.6%
桶川東中	11,680	518	65	12,299	105.3%
桶川西中	12,640	217	350	14,157	112.0%
加納中	11,200	972	0	10,912	97.4%

3 上記2に対する評価

図書標準達成率は全校平均値では 107.4%に達し、昨年度の 101.4%を大幅に上回った。全校で図書購入事業予算 99.8%執行し、「学校図書館図書標準」の達成を目標として取り組むことができた。また、市内業者からの寄贈本、地方創生臨時交付金の活用もあり、小学校7校中5校、中学校4校中3校が標準達成率を超えることができた。

4 今後の取組方針

市内全小・中学校の学校図書館において、標準達成率 100%を目指す。

5 令和4年度の目標（値）

標準達成率を超えた8校については、古くなった図書の修理や廃棄をしながら、標準達成率を維持しつつ、児童生徒が読みたくなるような図書の購入、図書館環境の整備を進める。また、達していない3校については、現状と課題を把握し、達成に向け支援を行う。市立図書館との連携について、調べ学習や読書活動に活かせる工夫を検討する。

施策の大綱	2 生きる力を育み次代に繋げる桶川をつくる		
施 策	学校教育の充実（202）		
基 本 事 業	学校教育への支援の充実（2022）		
事 業 名	就学援助事業		
予 算 額	（学務課） 41,261,000 円 （学校支援課） 228,000 円	決算額	（学務課） 33,712,094 円 （学校支援課） 0 円

1 事業概要 [学務課・学校支援課]

- （1）児童生徒の義務教育の機会均等のため、経済的に困難である保護者に対し、就学援助費を支給し、就学費用の援助を行った。特別支援教育の普及・奨励と入級児童生徒の保護者の経済的負担を軽減するため、特別支援教育就学奨励費を支給し、就学費用の援助を行った。
- （2）要保護、準要保護の認定がなされた世帯の児童生徒に対し、学校保健安全法で定められた疾病の医療費の援助体制を整えた。

2 事業実績 （ ）は令和2年度実績

（1）令和3年度就学援助費等執行状況 [学務課]

	要保護	準要保護	学用品 (要・準要保護)	学校給食費 (準要保護)	新入学学用品費 (入学前)	前年度 新入 学学用品費 (差額)	特別支援教育 就学援助費
小	2 人 (1 人)	248 人 (248 人)	5,541,469 円 (4,594,956 円)	9,680,877 円 (6,375,702 円)	21 人(22 人) 1,072,260 円	0 人 0 円	35 人(34 人) 2,211,746 円
中	0 人 (0 人)	163 人 (163 人)	4,144,325 円 (4,195,106 円)	7,328,743 円 (4,945,212 円)	48 人(48 人) 2,880,000 円	0 人 0 円	11 人(17 人) 852,674 円

（2）令和3年度医療費補助執行状況 [学校支援課]

	要保護	要保護 件数	準要保護	準要保護 件数	金額
小	0 人(0 人)	0 件(0 件)	0 人(1 人)	0 件(1 件)	0 円
中	0 人(1 人)	0 件(1 件)	0 人(0 人)	0 件(0 件)	0 円

3 上記2に対する評価 [学務課・学校支援課]

- （1）子の就学にあたり、経済的な支援が必要な保護者に対し援助を行うとともに、新入学児童生徒学用品費の入学前支給を滞りなく実施し、申請者に寄り添った援助を行うことができた。市内全児童生徒の家庭への案内配付と併せ、広報紙、市HP等に掲載し、申請促進を図ることができた。また、令和3年度から新型コロナウイルス感染拡大の影響で給与が減少したり、失業したりした保護者を対象とすることを周知したことにより、保護者からの相談につながった。なお、令和3年度は令和2年度と同様、新型コロナウイルス感染症の感染拡大により、校外学習等が中止になった学校が多く、執行額は減少した。
- （2）医療費の支給については、該当がなかった。

4 今後の取組方針 [学務課・学校支援課]

- （1）社会状況の変化に柔軟に対応した支給を行えるように予算の確保を行い、新型コロナウイルス感染症の影響で収入が減少した家庭等からの申請が見込まれるため、適切に対応する。
- （2）学校事務担当者の事務処理上の取扱いについて問題が生じないように、周知徹底を図るとともに、迅速かつ適正な事務処理を継続する。

5 令和4年度の目標(値)

援助の必要な保護者がより申請しやすくなるように、年2回の案内配付や広報誌の掲載(2月、10月)、市HP掲載の他、窓口案内表示を行うことで、制度の周知を図るとともに、適正で迅速な事務処理を継続する。

施策の大綱	2 生きる力を育み次代に繋げる桶川をつくる		
策	学校教育の充実（202）		
基本事業	学校教育への支援の充実（2022）		
事業名	学校運営協議会の推進事業		
予算額	898,000 円	決算額	737,804 円
1 事業概要 地域とともにある学校づくりを推進するために、教育委員会が学校運営協議会委員を任命し、令和元年度から段階的に学校運営協議会の設置校数を増やし、令和3年度より市内全小・中学校に設置した。			
2 事業実績 児童生徒の健全な育成に関する様々な課題解決のために、学校・家庭・地域の代表が集まり、「熟議」と「協働」を行うための組織として「学校運営協議会」を全校に設置した。 これにより、これまでは校長が中心となり、学校が各組織から個別に支援を受けていたが、学校を支援してきた各組織同士がつながり「協働」することで、学校が抱える課題解決につながった。 委員数：109名 報酬（年額）538,904 円（6,700 円/人） 費用弁償 198,900 円 ※報酬は学校職員23名を除く。1年に満たない任期の場合は、12か月で除した金額。 開催回数：3回（1校）、4回（6校）、5回（4校） 主な内容：校長の提示する学校経営の基本方針の承認 オンライン学習 Meet 体験 オンライン授業の参観及び意見交換 通学路の安全を含めた交通安全対策と課題について 新型コロナウイルス感染防止対策について 小・中学校の連携について（行事、学習、中1ギャップの解消） 学校関係者評価及び学校評価について			
3 上記2に対する評価 （1）コロナ禍における教育活動を、委員が参観することで、学校の教育活動と感染症防止対策の両立をどのように図るか、熟議することができた。 （2）GIGA スクール構想の初年度として、教育活動における ICT 機器の活用について、熟議することができた。 （3）学校が目指す児童生徒像の実現に向け、多面的・多角的な考えや意見が出され、協議が深まった。 （4）新型コロナウイルス感染症の状況により、学校運営協議会の中止・延期、書面での実施等、当初の計画通りに進めることが難しい面もあった。			
4 今後の取組方針 （1）小・中学校連携のコミュニティ・スクールの活動等、効果的な取組について情報提供を行っていく。 （2）学校運営協議会の設置による成果と課題を市内小中学校で共有していく。			
5 令和4年度の目標(値) 各学校における活動や課題を共有し、より効果的な運営ができるよう、桶川市コミュニティ・スクール連絡協議会の会議を開催する。			

施策の大綱	2 生きる力を育み次代に繋げる桶川をつくる		
施 策	学校教育の充実（2022）		
基本事業	学校教育への支援の充実（2022）		
事業名	教職員の管理業務事業		
予算額	1,200,000 円	決算額	170,145 円

1 事業概要

桶川市立小中学校教職員の事故防止及び市費対応に係る臨時的任用教職員の配置

2 事業実績**（1）教職員事故発生件数（令和3年度）（件）**

体 罰	0
酒酔い運転及び酒気帯び運転での交通事故	0
わいせつ行為等（セクハラを含む）	0
その他・非違行為等	0

（2）欠員補充に係る臨時的任用教職員の配置状況（年度当初の県費発令までの期間）

	欠員補充者（人）	市費負担日数（日）	市費負担費用（円）
小 学 校	6	8	75,887
中 学 校	5	10	94,258
合 計	11	18	170,145

（3）病休等に係る臨時的任用教員の配置状況（令和3年度は市費対応なし）

	病休者数(人) ※8日以上	市費対応 代替者数(人)	市費負担(日)	市費負担費用(円)
小 学 校	7	0	0	0
中 学 校	2	0	0	0
合 計	9	0	0	0

3 上記2に対する評価

- （1）過去の教職員事故を受け、市内小・中学校全校において、会計の取扱規程の整備・周知徹底のための研修を実施。職員自身の貴重品も含め、取扱いについて厳正を期し、教職員事故の絶無に向け、指導と研修を充実させた。
- （2）臨時的任用教職員を県費発令までの間、市費で補うことで児童生徒の指導に空白を作らないよう教職員を配置した。
- （3）病休等に係る臨時的任用教員は県費負担で適切に配置できた学校もあれば、臨時的任用教員の候補者不足のため未補充が続く学校も出てしまった。

4 今後の取組方針

- （1）事故防止に向けた研修を確実に実施させ、「教職員の服務規律の徹底」「当事者意識の高揚」を図り、教職員事故の絶無に向けた指導・啓発に努める。
- （2）退職教員の活用を図るとともに、広報おけがわや市HPなどで広く募集し、南部教育事務所や近隣市町教委とも連携を図りながら候補者を確保する。
- （3）ボトムアップによる倫理確立委員会の実施等を通じて、風通しの良い職場づくりを推進する。また、業務改善・負担軽減に向けた取組を推進する。

5 令和4年度の目標(値)

- （1）重点項目を情報・金銭の適正な管理、わいせつ行為の禁止、体罰等の禁止、各ハラスメントへの対応とし、教職員事故絶無継続に向けた啓発活動を推進する。
- （2）年間2回、桶川市の広報・HPに情報を掲載し臨時的任用教職員を確保に努める。

施策の大綱	2 生きる力を育み次代に繋げる桶川をつくる		
施 策	学校教育の充実（202）		
基 本 事 業	学校教育への支援の充実（2022）		
事 業 名	教職員の資質・能力の向上推進事業		
予 算 額	50,000 円	決 算 額	0 円
1 事業概要 教職員の資質・能力の向上を図るため、人事評価や各種研修会を行った。			
2 事業実績 (1) 教職員人事評価の実施 (2) 研修会の開催 ア 人事評価に係る評価者研修会 (実施月：4月、紙面研修、対象者：市内全小・中学校長) イ 夏季学校経営・運営研究協議会（対象者：市内全小・中学校長・教頭・主幹教諭） →新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点により中止とし、校長・教頭を対象とした南部教育事務所長講話を実施 ウ 臨時的任用教職員研修会の実施 ○個別研修…教員としての心得、服務及び生徒指導に関して ○学校教育指導員による会場研修			
3 上記2に対する評価 (1) 教職員人事評価の実施 評価者である校長・教頭が、自己評価シートに基づき計画的に教職員との面談（当初・中間・最終）及び授業観察を行った。学校運営参画の意識を高めるために、校長の学校経営方針と個々の教職員の目標を連鎖させることで、学校全体の教育力を向上させることができた。 (2) 研修会の開催 ア 紙面研修の形をとったが、人事評価制度の運用を通じて人材育成を行うことについての意識を高めることができた。 イ 校長・教頭を対象とした南部教育事務所長講話を実施し、学校事故根絶に向け、管理職を指導することができた。 ウ 個別研修では、新規採用臨時的任用教職員を対象に、服務及び生徒指導に関する研修を行うことで、教員としての使命感を高め、実践的な指導力を高められるようにした。学校教育指導員による会場校研修では、実際の事例をもとにした実践的な研修を行うことで、教職員の自覚を高められるようにした。			
4 今後の取組方針 (1) 人事評価制度の効果的な運用のための情報提供の充実と研修会の充実を図る。 (2) 学校管理職のニーズを捉えたテーマ設定と、主体的な学びを取り入れた実践的な研修の計画・実施する。			
5 令和4年度の目標(値) (1) 人事評価制度を適切に運用し、公正公平な教職員の評価に努めるとともに学校の教育力向上と人材育成を実現する。 (2) 人材の育成と学校の教育力の向上を目指し、令和3年度と同様に管理職を対象とした講話を実施する。学校教育指導員による教職員事故根絶に向けた研修については、各学校の実態に応じた内容を加えた研修を行う。			

施策の大綱	2 生きる力を育み次代に繋げる桶川をつくる										
施策	就学前教育の支援・充実（201）										
基本事業	家庭の教育力の向上（2011）										
事業名	PTAリーダー研修会										
予算額	0円 ※総会と同時開催のため、単独の予算はなし	決算額	0円								
1 事業概要 小・中学校PTA役員等を対象に、各小・中学校PTA活動の促進及び家庭教育のあり方等について研修を実施した。											
2 事業実績 令和3年12月15日（水）に、家庭教育アドバイザーの野頭國郎氏をお招きし「家庭教育とPTA」というテーマで講演をいただいた。 これからの家庭教育について、心理学の面から、子どもをほめて育てることの重要性を中心に講話をいただいた。 ※新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から各校3～4人の人数制限をして実施した。ワークショップ・質疑応答等は実施せず。											
<table border="1"> <tr> <td></td><td>R元年度</td><td>R2年度</td><td>R3年度</td></tr> <tr> <td>参加者数</td><td>42人</td><td>—</td><td>35人</td></tr> </table> ※令和2年度は新型コロナ対応のため未実施					R元年度	R2年度	R3年度	参加者数	42人	—	35人
	R元年度	R2年度	R3年度								
参加者数	42人	—	35人								
3 上記2に対する評価 研修全体を通して、コミュニケーションの大切さ、俯瞰して教育していくことの大切さについて感じる事ができたようだ。 「大変参考になった。」「家庭でも実践していきたい。」等の感想もあり、大変充実した研修となった。											
4 今後の取組方針 （1）子どもたちの健やかな成長を願い、健康で心豊かな家庭づくりを進めるため、関係機関の情報等も活用し、親の悩みに応えられるような研修内容、講師の選定などを行う。 （2）保護者が参加しやすい日程を検討し、参加者を増やす。 （3）新型コロナウイルス感染症拡大防止の措置を講じながら、講演内容等を十分検討し、興味関心に応じたテーマを設定し、参加者を募る。											
5 令和4年度の目標（値） 保護者のニーズを把握するため、参加者アンケートを実施する。 ※市PTA連合会総会と同日開催とする。											

施策の大綱	2 生きる力を育み次代に繋げる桶川をつくる		
施策	就学前教育の支援・充実（201）		
基本事業	家庭の教育力の向上（2011）		
事業名	PTA家庭教育講演会		
予算額	367,000 円	決算額	233,610 円

1 事業概要

小・中・高校のPTAが連携し家庭教育の充実を図るため、桶川市PTA連合会と市内高等学校PTA・後援会との共催で、PTA家庭教育講演会を開催した。

2 事業実績

PTAべに花講演会

開催日 令和4年1月15日(土)

会場 響の森 桶川市民ホール

講演 「目標達成への道のり ～どんな状況でも諦めず最善を尽くす～」

講師 福田 正博氏 サッカー元日本代表

演奏 桶川東中学校 吹奏楽部

展示 桶川高等学校 美術部 書道部 華道部

桶川西高等学校 美術部 書道部 科学部

※新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から入場制限をして実施。

	R 元年度	R2 年度	R3 年度
参加者数	530 人	一人	345 人
満足度	96%	—%	99%

※満足度は参加者アンケート結果による

3 上記2に対する評価

講演では元サッカー日本代表ということもあり、アンケートで99.4%の参加者が「満足」と答えていた。東中学校の吹奏楽部も堂々と演奏していた。

高校生の部活動の作品展にも、多くの人が足を運んでくれた。

高校生の作品等を披露する場を提供することができた。

4 今後の取組方針

- (1) 家庭が子供の教育に対する責任を自覚し、本来果たすべき役割を見つめなおす機会をつくることを目的として、市内に小・中・高等学校がある強みを生かし、合同で実施することによって家庭、地域の教育への関心を高める。
- (2) 保護者のニーズに沿った内容を検討する。広報活動（広報・保護者向け便り等）を効果的に行う。
- (3) 引き続き縮小した形で実施するのか、令和元年度以前の形に戻した形で実施するのか、方針を定める。

5 令和4年度の目標（値）

- (1) アンケートの結果から講演内容等のニーズを把握し、興味関心に応じたテーマを設定する。
- (2) 令和3年度よりも、参加者数が上回るように周知・広報を行う。

施策の大綱	2 生きる力を育み次代に繋げる桶川をつくる		
施 策	就学前教育の支援・充実（201）		
基本事業	家庭の教育力の向上（2011）		
事業名	「親の学習」講座		
予算額	20,000 円	決算額	0 円

1 事業概要

より多くの保護者に子育てについて考えてもらうとともに、親が親として成長する機会とするために、「親の学習」講座を行った。

2 事業実績

小学校では、新型コロナウイルス感染症拡大防止対策を講じながら、埼玉県家庭教育アドバイザーの弓削多美信氏を指導者として、「小学校生活を親子で楽しく迎えるために」をテーマに講座を行った。

中学校では、入学を控えた子供を抱える保護者向けの家庭教育の在り方について講座を行う予定（1月）であったが、国の緊急事態宣言を受け、中止した。

※ 県からの講師派遣に係る報償費は県負担となるため無償

学 校 名	実 施 日	対象者数(人)	参加者数(人)	参加率(%)
朝 日 小	10 月 26 日(火)	6 1	6 0	98.36
加 納 小	10 月 18 日(月)	4 6	4 6	100.00
桶 川 東 小	10 月 27 日(水)	1 3 1	1 2 6	96.18
桶 川 西 小	10 月 19 日(火)	1 0 5	9 7	92.38
川 田 谷 小	11 月 2 日(火)	3 5	3 2	91.43
桶 川 小	11 月 8 日(月)	9 8	9 8	100.00
日 出 谷 小	11 月 5 日(金)	8 2	7 9	96.34
小 計		5 5 8	5 3 8	96.42

3 上記2に対する評価

小学校では、入学を控えた保護者の不安を軽減させるような、和やかな雰囲気の中で講座を行うことができた。子どもの自立に向けて、今日から始められることを提示し、学校生活に対して期待感を持ちながら、入学前の準備に余裕をもって進められるような話をいただいた。グループワーク等はできなかったが、最後まで熱心に話に聞き入っている方がほとんどであった。

4 今後の取組方法

- (1) 多くの保護者が参加できるよう、新型コロナウイルス感染拡大防止の措置を講じた上で、小学校では就学時健診時、中学校では入学説明会前に講座を開催する。
また、高い参加率の維持・向上を図るため、学校においては講座の時間設定等を工夫していく。
- (2) テーマについては、今後も必要に応じて検討、見直しを図る。

5 令和4年度の目標（値）

- (1) アンケート結果を活用し、より満足度を高めるため保護者のニーズに沿った内容の講座を行う。
- (2) 参加率が令和3年度を上回るよう、講座の内容や時間等を設定する。

施策の大綱	2 生きる力を育み次代に繋げる桶川をつくる		
施 策	青少年の健全な育成（203）		
基本事業	生きる力を育む活動の充実（2031）		
事業名	成人式典		
予算額	410,000 円	決算額	400,487 円
1 事業概要			
「成人の日」を成人になったことを自覚する記念の日とし、新成人の新しい門出を共に祝福するとともに、将来の幸福を祈念するために、成人式典を実行委員会方式にて実施した。			
2 事業実績			
開催日・会場：令和4年1月10日（月）成人の日 桶川市民ホール テーマ： 紅 ～成人式 the final～（東側）～太陽を目指す花～（西側）			
開催内容：式典			
※新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点により、高崎線を基準に新成人を東西の中学校区に分け、2回に分けて開催した。			
		【実行委員会】 広報による公募や卒業中学校から推薦された新成人11人で構成され、東側中学校区5人、西側中学校区6人に分け、成人式典の企画、案内状発送作業及び前日準備、当日の運営を主体的に行った。	
歳出：消耗品等需用費 152,967 円、施設使用料 247,520 円 ※2回に分けて実施したため、施設使用料が例年より高額となった。			
3 上記2に対する評価			
実行委員長主導で、積極的に意見を出し合い、円滑な成人式典を開催することができた。（推薦8人、公募3人） コロナ禍での感染症拡大防止対策を講じながらの開催となったが、当日は教育部職員の協力を得て、無事に式典を開催することができた。			
4 今後の取組方針			
(1) 式典の名称について検討する。 (2) with コロナでの実施方法を検討し、出席率の向上を図る。			
5 令和4年度の目標（値）			
出席率80%以上とする。			

施策の大綱	2 生きる力を育み次代に繋げる桶川をつくる		
施 策	青少年の健全な育成（203）		
基本事業	青少年育成活動の支援と推進（2032）		
事業名	放課後子供教室事業		
予算額	13,764,000 円	決算額	11,558,833 円

1 事業概要

子供たちが、地域社会の中で心豊かで健やかに育まれる安全かつ安心な居場所づくりを目的に、桶川市放課後子供教室を運営した。

2 事業実績

- (1) 国が推進している「新・放課後子ども総合プラン」に基づき、市内全小学校で放課後子供教室を実施した。
- (2) スタッフ（コーディネーター、教育活動推進員、安全管理員、協力員）及び運営委員会（校長、PTA、自治会及び行政関係者、コーディネーター）を設置した。

学校名	参加児童数	活動日数	スタッフ人数 【延べ人数】	開室年度
桶川東小学校	26(15)人	46(20)日	48人・12団体	H24
日出谷小学校	23(25)人	75(34)日	32人・9団体	H24
桶川西小学校	31(27)人	85(30)日	46人・11団体	H27
朝日小学校	51(28)人	81(38)日	53人・11団体	H27
桶川小学校	38(42)人	83(38)日	41人・9団体	H28
加納小学校	26(24)人	112(35)日	38人・7団体	H28
川田谷小学校	23(18)人	65(48)日	46人・6団体	H28
合計人数	218(179)人	—	304人・65団体	—

(表は令和4年3月31日時点。表中のカッコ内は令和2年度実績。「スタッフ人数」は登録者と団体数。)

※ 新型コロナウイルス感染状況を鑑み、各教室で一部期間休室とした。

歳出：報償費 9,048,820 円、需用費 519,709 円、役務費 441,584 円

使用料及び賃借料 1,548,720 円

※ 令和3年度より活動日数が多くなったため、歳出額も増加した。

3 上記2に対する評価

- (1) 年間の活動を通じてスタッフと参加児童、参加児童同士、スタッフ同士の信頼関係を深めることができた。また、学校側・保護者側の理解を深めることができた。
- (2) 保護者アンケートでは「学校の授業では得られない知識、家では出来ない工作などが出来たと喜んでいました。」「毎回、参加するのを楽しみにしていて、帰り道に作ったものを見せてくれたり、沢山お話をきかせてくれたりするので、親子の楽しい時間ができた。」「先生方が明るく接して下さり、とても楽しそうでした。」などといった高評価を得られた。

4 今後の取組方針

- (1) 引き続き安定した事業となるよう、各学校のスタッフ・校長・放課後児童クラブとの調整を綿密に行う。
- (2) スタッフによる事業運営について、細かな事務の取扱い等ができるだけ全教室で統一したものになるよう、スタッフとの協議を行う。
- (3) 多くの子ども達に活動に参加してもらえよう、周知等を行う。

5 令和4年度の目標（値）

- (1) 引き続き、各校それぞれの特色が出る放課後子供教室を実施する。
- (2) スタッフの個々の能力の向上を図るため研修会を実施する。
- (3) 参加児童数が令和3年度を上回るように周知を行う。

施策の大綱	2 生きる力を育み次代に繋げる桶川をつくる		
施 策	青少年の健全な育成（203）		
基本事業	青少年育成活動の支援と推進（2032）		
事業名	青少年健全育成事業		
予算額	1,678,000 円	決算額	1,108,641 円
1 事業概要			
青少年育成活動を推進するために、以下の3事業を行った。			
(1) 青少年問題協議会の開催			
(2) 青少年健全育成市民会議の推進			
(3) 青少年育成団体への支援			
2 事業実績			
(1) 青少年問題協議会の開催			
第1回：令和3年7月13日（火）			
内 容：①桶川市青少年健全育成指針の見直しについて			
②意見交換			
③桶川市いじめ防止連絡協議会委員選出			
(2) 青少年健全育成市民会議の推進			
ア 総会を书面議決により開催			
イ 「私たちの主張」作文コンクール及び「家庭の日」ポスターコンクールを実施			
ウ 市民大会の実施（11月21日、桶川市役所で開催）			
青少年育成功労賞の表彰、作文・ポスターコンクール入賞者の表彰を行った。			
参加者数99人（令和2年度103人）。			
エ 市民会議広報「ひまわり」の発行（1月1日発行 全戸配布）			
オ 巡回指導の実施 延べ587人（令和2年度延べ393人）。			
巡回指導員研修会：6月2日、桶川市役所で開催			
講師：日本ガーディアン・エンジェルス 理事長 小田啓二氏			
(3) 青少年関係団体への支援			
各青少年関係団体や事業に、補助金等の交付や公共施設の利用の支援を行った。			
〔補助金等交付実績〕			
件 名		金 額	
桶川市青少年健全育成市民会議交付金		480,490 円	
桶川市子ども会育成連絡協議会補助金		440,654 円	
青少年相談員協議会補助金		154,000 円	

3 上記2に対する評価

- (1) 青少年問題協議会の活動については、桶川市青少年健全育成指針の方向性のほか、青少年を取り巻く環境における現状と課題について活発な意見交換を実施した。
- (2) 青少年健全育成市民会議より指導員の委嘱を行っている巡回指導の実施については、新型コロナウイルス感染症拡大防止策を講じて研修会を実施することができ、指導員から「良い経験となった」「多くの大人の目で、見守りや声かけをすることが大事だと感じた」等、大変好評であった。
- (3) 青少年育成団体への支援については、各団体への活動運営費への財政的な支援を行い、各団体とも新型コロナウイルス感染症拡大防止策を講じながら事業を実施した。

4 今後の取組方針

- (1) 青少年問題協議会については、桶川市青少年健全育成指針の見直しについて、それぞれの立場から意見を伺い、令和5年度中を目途に新しい指針を策定する。また、協議会で得られた情報を青少年健全育成市民会議の活動に反映し、更なる連携を深めていく。
- (2) 青少年健全育成市民会議については、新型コロナウイルス感染症拡大防止策を講じながら、地域体験活動や非行防止活動等の事業を実施する。
- (3) 青少年育成団体への支援については、積極的に事業を実施できるよう財政支援等を行う。

5 令和4年度の目標（値）

- ・ 青少年健全育成市民会議の事業について、新型コロナウイルス感染症拡大防止策を講じながら、事業を推進する。
- ・ 巡回指導員の活動実績を、延べ590人以上とする。

施策の大綱	2 生きる力を育み次代に繋げる桶川をつくる		
施 策	生涯学習・生涯スポーツの充実（204）		
基本事業	多様な学習機会の提供（2041）		
事業名	生涯学習情報の提供		
予算額	26,000 円	決算額	17,490 円
1 事業概要 生涯学習に係る情報を広く市民に周知するため、情報紙を発行するとともに、ホームページ上にも各種情報の掲載を行った。			
2 事業実績 生涯学習情報の提供：一般市民及び児童生徒向けに情報提供を行った。 （1）情報紙「生涯学習ガイド」の発行 市内で開催される講座等の情報を掲載した情報紙「生涯学習ガイド」を年 3 回（4 月 270 部、8 月 270 部、12 月 300 部）発行し、公民館等の公共施設に設置、市民の学習機会について周知を行った。また、同様の内容について、市ホームページへの掲載を行った。 （2）児童生徒向け学習情報紙の発行 夏休みに開催される、主に小・中学生を対象とした催し物を紹介する「今度は何をしようかな？」を 7 月に発行し、児童生徒に配布した。また、公共施設にも設置した。 歳出：需用費 17,490 円			
3 上記 2 に対する評価 新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点により、市内で開催される講座や催し物については減少しているが、各課・施設の協力のもと、幅広く情報を収集し、市民及び児童生徒に対し情報提供を行うことができた。			
4 今後の取組方針 各課・施設と連携を図り、幅広く情報を収集し、より多くの講座の情報を発信していく。			
5 令和 4 年度の目標（値） （1）with コロナで実施できる事業の情報提供について、各課・施設に協力を呼びかけるとともに、情報提供の機会を令和 3 年度よりも増やす。 （2）各課・施設に協力を呼びかけ、情報の充実を図り、利用者数の増加につなげる。			

施策の大綱	2 生きる力を育み次代に繋げる桶川をつくる		
施 策	生涯学習・生涯スポーツの充実（204）		
基本事業	多様な学習機会の提供（2041）		
事業名	職員出前講座		
予算額	0 円	決算額	0 円

1 事業概要

市民の学習環境の向上を図りつつ、市民と行政との交流を深めることを目的に、市職員が各部署の分掌事務に基づく学習メニューを用意し、市民の要請により講師（市職員）を派遣して講座を開催した。

2 事業実績

実施回数…9回、参加延べ人数…588人

〔実施内容〕

No.	担 当 課	講 座 名	実施月	利 用 団 体	参加人数
1	秘書広報課	あなたにもできる広報紙づくり	5 月	団 体	29 人
2	歴史民俗資料館	桶川の歴史と文化について	5 月	団 体	7 人
3	環境課	おけがわの緑と自然再生	5 月	中学校	142 人
4	産業観光課	べに花って、な・あ・に？	5 月	中学校	142 人
5	生涯学習文化財課	桶川の歴史と文化について	6 月	中学校	141 人
6	健康増進課	生活習慣病の予防について	11 月	団 体	19 人
7	高齢介護課	聞いてみたい介護保険	11 月	団 体	50 人
8	自治文化課	悪質商法にはだまされない！	11 月	団 体	10 人
9	歴史民俗資料館	桶川の歴史と文化について	3 月	団 体	48 人

3 上記2に対する評価

令和3年度は9件の講座を実施した。コロナ前の令和元年度の18件と比べると件数は減少しているが、令和2年度が未実施であったため、令和2年度比では皆増となった。

受講者アンケートは、「満足」と「やや満足」との回答を合わせると90.7%となり、高評価を得ることができた。

4 今後の取組方針

- （1）問合せ時の市民ニーズに応じて、メニューに掲載されている講座以外でも柔軟に対応し、講座数を伸ばす。
- （2）職員に掲示板などで職員出前講座について周知し、講座内容を増加・充実させる。
- （3）職員出前講座の依頼団体へ満足度調査を実施する。

5 令和4年度の目標（値）

- （1）広報やホームページに掲載し、広く周知するとともに、市内小中学校・市内集会所などを通じてPRの強化を図る。
- （2）新規の講座を開設し、実施講座数の増加につなげる。

施策の大綱	2 生きる力を育み次代に繋げる桶川をつくる		
施 策	生涯学習・生涯スポーツの充実（204）		
基本事業	多様な学習機会の提供（2041）		
事業名	市民大学の開催		
予算額	155,000 円	決算額	155,000 円

1 事業概要

多様な学習機会を提供するための、児童及び成人を対象とする事業を実施した。

（1）「子ども大学あげお・いな・おけがわ」

（2）「桶川市民大学」

2 事業実績

（1）「子ども大学あげお・いな・おけがわ」の開設

上尾市・伊奈町・桶川市の小学校5～6年生までの違う学校・学年の子供たちが集い、なぜ？を追求する「はてな学」、郷土を知る「ふるさと学」、よりよく生きる「生き方学」の3つの分野を学ぶ、子どものための大学を開校実施した。

回	開催日	内 容	講師など
1	6/12	講義1「赤ちゃんの絵本は おもしろい ～とびらを開いて ことばが生まれる～」	聖学院大学准教授 寺崎恵子
2	6/19	講義2「もしもあなたが海外の学校に通うことになったら？」	聖学院大学准教授 佐藤千瀬
3	7/17	講義3「わくわく！発見！図書館のひみつ☆～本はみんなのおともだち～」	桶川市立図書館職員
4	8/20	講義4「平和について考えよう」	桶川飛行学校平和祈念館職員

（2）「桶川市民大学」の開設（全9回）【令和2年度は全6回】

大学名を変更して第2回目の開催となった。生涯学習の一環として、より豊かな教養を身につけ、自らの生きがいを充実していく場として、事業を実施した。

テーマ：「生き甲斐をもって生きる」

参加者数：38人（令和2年度40人）参加延人数：302人（令和2年度172人）

主な歳出：講師等謝礼 105,000 円

回	開催日	内 容	講師など
1	8/26	開講式 講義 1「桶川市のコロナ対策と夢と希望を未来につなぐまちづくり」	市長 小 野 克 典
2	9/ 2	講義 2「ハザードマップを読む、使う」	立正大学教授 島津 弘
3	9/16	講義 3「貨幣・考〜マネーと何か」	立正大学教授 林 康史
4	10/ 7	講義 4「生きる事は学ぶ事」	東洋大学名誉教授 吉田 公平
5	10/21	講義 5「人生 100 年時代を健康に生き抜く知恵」	日本体育大学教授 横山 順一
6	11/ 4	見学 桶川市内歴史散歩 川田谷地区	桶川市ガイドボランティア
7	11/18	講義 6「賢い薬局の利用方法その 2」	日本薬科大学客員教授 木村 正幸
8	12/16	講義 7「コロナウイルスとワクチンについて」	日本薬科大学准教授 齋藤 博
9	1/13	講義 8「桶川の歴史」 閉講式	桶川市歴史民俗資料館職員

3 上記 2 に対する評価

(1) 子ども大学あげお・いな・おけがわ

コロナ禍ではあるが、感染症対策を講じながら全 4 回実施した。どの講義にも子どもたちが意欲をもって集中して取り組む様子が見られた。

参加児童へのアンケートでも、「とても満足」と「少し満足」を合わせると 97.0% となり、高評価を得られた。(受講者 40 人中 33 人回収)

(2) 桶川市民大学

コロナ禍ではあるが、受講者を 40 人に限定し、感染症対策を講じながら開講式から閉講式まで全 9 回実施した。制限のある中での講義となったが、開催方法や講義内容を工夫することにより、学習機会の提供を行うことができた。

参加者へのアンケートでも、「とてもよかった」と「よかった」を合わせると 75.9% となり、高評価を得られた。(受講者 40 人中 29 人回収)

4 今後の取組方針

(1) 子ども大学あげお・いな・おけがわは、引き続き子ども達に意欲をもって取り組んでもらえるよう、他市町や教育機関と連携し、環境作りを行う。

(2) 桶川市民大学は、今後も受講者の期待に応えるよう大学等と連絡を取りながら講義内容の充実を図るとともに、新型コロナウイルス感染症拡大防止対策を講じながら、受講者が安心して受講できるように取り組む。

5 令和 4 年度の目標 (値)

(1) 子ども大学あげお・いな・おけがわについては、他市町や教育機関と連携し、参加者の満足度の向上につながるよう、環境作りを行う。

(2) 桶川市民大学については、アンケート結果等を参考にしながら、参加者の満足度が令和 3 年度を上回るような、講座内容を設定する。

施策の大綱	2 生きる力を育み次代に繋げる桶川をつくる																						
施 策	生涯学習・生涯スポーツの充実（204）																						
基本事業	多様な学習機会の提供（2041）																						
事業名	文芸桶川発行																						
予算額	466,000 円	決算額	395,460 円																				
1 事業概要 文芸活動を通じて豊かな人間性を養い、市民文化の創造と地域文化の普及向上に資することを目的として「文芸桶川第42号」を発行した。																							
2 事業実績 （1）発行部数等 ・発行部数：270部 ・無償配布部数：193部（執筆者、市内公共施設、学校等） ・有償頒布部数：27部（頒布価格：1冊1,000円 一般部門の応募料：500円） （2）編集委員会 文化団体連合会文学会（2人）、図書館実作協議会・俳句連盟・短歌関係団体・教育研究会（各1人）から選ばれた6人の委員による編集委員会を設置し、編集及び校正等を行った。 （3）掲載作品分野および掲載作品数（掲載者数） 一般部門は応募作品全て掲載し、ジュニア部門は応募146作品から選考し、66作品を掲載した。（扉絵を含む） ○一般部門の掲載作品数（掲載者数） 小説2編（2人）、随筆9編（9人）、詩5編（5人）、短歌70首（14人）、俳句155句（31人）、川柳10句（2人） ○ジュニア部門の掲載作品数（掲載者数） 小説7編（7人）、短歌16首（16人）、俳句37句（37人） 挿絵6点（6人）																							
<table border="1"> <thead> <tr> <th></th><th>R 元年度</th><th>R2 年度</th><th>R3 年度</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>作 品 点 数</td><td>445 点</td><td>360 点</td><td>317 点</td></tr> <tr> <td>応 募 者 数</td><td>242 人</td><td>166 人</td><td>209 人</td></tr> <tr> <td>（うち一般）</td><td>68 人</td><td>64 人</td><td>63 人</td></tr> <tr> <td>（ジュニア）</td><td>174 人</td><td>102 人</td><td>146 人</td></tr> </tbody> </table>					R 元年度	R2 年度	R3 年度	作 品 点 数	445 点	360 点	317 点	応 募 者 数	242 人	166 人	209 人	（うち一般）	68 人	64 人	63 人	（ジュニア）	174 人	102 人	146 人
	R 元年度	R2 年度	R3 年度																				
作 品 点 数	445 点	360 点	317 点																				
応 募 者 数	242 人	166 人	209 人																				
（うち一般）	68 人	64 人	63 人																				
（ジュニア）	174 人	102 人	146 人																				
歳出：印刷製本費 350,460 円、編集委員謝礼 45,000 円																							
3 上記2に対する評価 ジュニア部門に多数の応募作品があったため、審査選考を編集委員が行い、掲載作品の選出を行った。一般部門の応募者数が横ばいである。																							
4 今後の取組方針 （1）表紙絵、中扉絵、挿絵は、編集委員会で作品制作者を探す。 （2）一般の部の応募を増やすため、市内の高等学校へ応募の案内をする。																							
5 令和4年度の目標（値） チラシ等での周知により、一般の部の応募者を増やし、70人以上にする。																							

施策の大綱	2 生きる力を育み次代に繋げる桶川をつくる		
施 策	生涯学習・生涯スポーツの充実（204）		
基本事業	多様な学習機会の提供（2041）		
事業名	パソコン講習とサポート事業		
予算額	28,000 円	決算額	11,400 円
1 事業概要			
視覚障害者からのパソコンの疑問や相談に応じる「視覚障害者向けパソコン相談会」を実施した。また、パソコン技術の向上を目的として、ボランティア団体である桶川 IT ネットとの共催事業で、「パソコン講座」及び「パソコンサポートセンター」を実施した。			
2 事業実績			
(1) 視覚障害者向けの疑問や相談に応じるパソコン相談会 毎月第2・第4金曜日に実施した。(年間23回を予定) ※ 緊急事態宣言の発令により、相談会を中止していた期間もあり、令和3年度は16回の開催、参加者は延べ19人となった。 歳出：講師等謝礼 11,400 円			
(2) パソコン講習			
講 座 名		受講者数（定員）	
初心者講座		9人（10人）	
はじめてのインターネット講座（2コース）		20人（各回10人、計20人）	
ワード基礎講座（2コース）		17人（各回10人、計20人）	
エクセル基礎講座（2コース）		16人（各回10人、計20人）	
デジカメ写真活用講座		中止	
ワード応用講座（2コース）		18人（各回10人、計20人）	
エクセル応用講座（2コース）		20人（各回10人、計20人）	
合 計		100人（110人）	
(3) パソコンサポートセンター 毎週金曜日に実施した。(令和3年度は41回実施、参加者は延べ112人)			
3 上記2に対する評価			
新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から、1コースの定員を10人程度に減らし、受講者が安心して受講ができるように、はじめてのインターネット講座・ワード基礎講座・エクセル基礎講座・ワード応用講座・エクセル応用講座において、コース数を増やして開講した。			
4 今後の取組方針			
桶川 IT ネットと連携を図りながら、新型コロナウイルス感染症拡大防止の措置を講じ、参加者のニーズに応じた講座を開催する。			
5 令和4年度の目標（値）			
各パソコン講座の復習や予習をする場として、パソコンサポートセンターをPRし、令和元年度と同水準の1回平均5人を目標に、利用者の増加を図る。			

施策の大綱	2 生きる力を育み次代に繋げる桶川をつくる		
施 策	生涯学習・生涯スポーツの充実（204）		
基本事業	人材の育成と活用（2043）		
事業名	生涯学習推進体制の整備		
予算額	479,000 円	決算額	277,676 円

1 事業概要

生涯学習推進体制の整備のため、（１）から（２）までの会議を開催し、（３）の研修会を開催することにより、市内の生涯学習・社会教育の現状と課題について意見を聴取した。（４）社会教育指導員を配置することで社会教育の特定分野の指導、学習相談及び社会教育関係団体の育成に寄与した。

2 事業実績

（１）桶川市生涯学習推進会議の開催

※６月に開催予定の第１回桶川市生涯学習推進会議は、新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から書面開催

第２回 令和３年１２月３日（月）

内 容：桶川市生涯学習推進指針について

令和３年度の主な生涯学習推進事業中間報告について

（２）桶川市社会教育委員会会議の開催

第１回 令和３年５月２６日（水）【書面決議】

内 容：①令和２年度生涯学習に関する主な事業報告について

②令和３年度生涯学習に関する事業計画

③令和２年度桶川市社会教育委員会会議活動報告及び令和３年度桶川市社会教育委員会会議活動計画

④令和３年度社会教育関係補助金・交付金について

第２回 令和３年８月１７日（木）

内 容：各委員より

①老人クラブの歩みについて

②社会教育活動/将来について

③発達障害や不登校の子ども・若者たちへの支援についての一考察

④河川氾濫に備えて自分の避難計画を作ろう

臨 時 令和３年９月２９日（火）

内 容：各委員より

①桶川西中学校の学校運営協議会について

②コロナ禍で考えたこと

③コロナ禍における公民館での活動について

第３回 令和３年１１月１１日（木）

内 容：社会教育委員に関連する委員の確認と後任委員の選出について

第４回 令和４年２月２１日（月）

※新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から中止

(3) 社会教育関係委員合同研修会の開催

開催日：令和4年2月21日（月）

※新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から研修資料を送付した。

(4) 社会教育指導員の設置

社会教育の特定分野の指導、学習相談及び社会教育関係団体の育成のため、2名を雇用した。主に、桶川市PTA連合会の事務局、桶川市民大学やふれあい学級の事業を担当した。

歳出：主な報酬及び報償費 229,700 円、費用弁償 18,200 円、需用費 19,776 円

3 上記2に対する評価

(1) 桶川市生涯学習推進会議を開催し、生涯学習に関する事業について意見を伺い、今後の事業計画に生かすことができた。

(2) 桶川市社会教育委員会を開催し、各委員の立場での活動状況や意見を聞くことができた。

(3) 社会教育指導員を設置し、社会教育についての高い専門性に基づき、小・中学校PTA連合会活動の支援や桶川市民大学の開講、その他各種講座等を開催した。

4 今後の取組方針

(1) 桶川市生涯学習推進会議

桶川市の生涯学習における事業の推進について調査・審議する。

(2) 桶川市社会教育委員会

「社会教育の普及・振興」について審議する。

(3) 社会教育関係委員合同研修会

社会教育委員、公民館運営審議会委員、生涯学習推進会議委員合同の研修会を実施し、情報交換を深めていく。

(4) 社会教育指導員

社会教育事業の企画・立案及び社会教育関係団体の指導・育成に務めていく。

5 令和4年度の目標（値）

社会教育関係委員合同研修会にてアンケートを実施し、時代の流れに即したテーマの研修会を開催する。

施策の大綱	2 生きる力を育み次代に繋げる桶川をつくる		
施 策	生涯学習・生涯スポーツの充実（204）		
基本事業	人材の育成と活用（2043）		
事業名	学習ボランティア推進事業		
予算額	36,000 円	決算額	35,200 円
1 事業概要 学習ボランティアとして市民の学習活動を支援できる人材を「桶川み・ら・い塾一人財バンク」に登録し、活用を図った。			
2 事業実績 （1）登録状況：登録者数 36人（令和2年度34人） 登録団体数10団体(令和2年度10団体) ※芸術文化、スポーツ・レクリエーション、家庭生活・趣味、教育等一般、人文・社会科学、自然科学、市民生活・国際関係などの幅広い分野にわたる。 （2）利用状況 令和3年度の利用実績は4件で、全て子どもを対象としたものであった。 （令和2年度0件、令和元年度5件、うち子ども対象4件） （3）活動の周知策 広報・ホームページへ掲載した。昨年度の目標であるリーフレットを作成した。 新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から、令和3年度の「人財バンク実演・展示会」は中止した。			
3 上記2に対する評価 昨年度より利用件数は増えたが、一昨年度の利用件数よりもやや減っている。子どもを対象とした利用件数は、一昨年度と同数であり、各所団体で潜在的な需要はある。広く周知を行うことで、潜在的なニーズの充足が見込める。			
4 今後の取組方針 桶川み・ら・い塾人財バンク利用システムを市民へ広く周知する策を検討する。			
5 令和4年度の目標（値） 昨年度に作成したリーフレットにより市民へ広く周知する。また、関係機関への周知等、情報提供の機会を昨年度よりも増やしていくことで、利用者の増加につなげる。			

施策の大綱	2 生きる力を育み次代に繋げる桶川をつくる		
施 策	人権教育・啓発と平和の推進（205）		
基本事業	人権教育の推進（2051）		
事業名	人権教育の推進		
予算額	4,161,000 円	決算額	3,807,207 円

1 事業概要

桶川市人権教育基本方針の趣旨に基づき、社会教育、生涯学習の観点から市民の人権感覚の向上を目指し、人権教育の啓発と推進を行った。

2 事業実績**(1) 桶川市人権教育推進協議会****ア 協議会**

第1回 開催日：令和3年6月4日（金）【中止→書面開催】

内 容：令和2年度事業報告及び令和3年度事業計画 等

第2回 開催日：令和4年2月14日（月）

内 容：令和3年度事業報告及び令和4年度事業計画（案） 等

イ 研修会**(ア) 企業等対象人権問題研修会**

※新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から中止

(イ) 人権教育・啓発講演会

※新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から中止

(2) 桶川市立集会所事業**ア 成人学級講座**

※新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から中止とし、代表者会議の際に人権啓発冊子等を配布・説明し啓発を行った。

※「第48回憲法・人権市民のつどい」12月4日（土）実施

イ 文化講座を次表のとおり実施した。（カッコ内は令和2年度）

集会所	教室名	受講者数	参加延べ人数	実施回数
加 納	書道教室	7(9)人	140(81)人	24(10)回
	編み物教室	16(20)人	311(181)人	24(9)回
桶 川	書道教室	21(19)人	387(132)人	24(12)回
	デコパージュ教室	14(16)人	269(94)人	24(10)回

ウ 夏休み子供教室

※新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から中止

エ 集会所文化講座作品展

令和3年12月11日（土）桶川集会所において実施

来場者数 32人（令和2年度は中止、令和元年度は67人）

○集会所事業主要経費

項 目	経 費
文化講座講師謝礼	614,400 円
集会所光熱水費	538,336 円
集会所管理委託	1,601,062 円
集会所清掃委託	421,850 円
合 計	3,175,648 円

3 上記2に対する評価

- (1) 新型コロナウイルス感染症拡大により研修会を実施できなかった。
- (2) ア 成人学級については、コロナ禍においても人権啓発を行うことができた。
 イ 文化講座については、新型コロナウイルス感染症拡大防止対策を講じながら実施することができた。
 ウ 夏休み子供教室については、新型コロナウイルス感染症拡大により実施できなかった。
 エ 集会所文化講座作品展については、新型コロナウイルス感染症拡大により来場数は32人と少なかったが、「このような取組を今後も続けてほしい」という声が聞かれた。

4 今後の取組方針

- (1) 桶川市人権教育推進協議会、集会所事業は、様々な人権課題の早期解決を目指し、市民の人権感覚の向上への推進役として事業に関わる人々の意識を高めていく。事業の実施にあたっては、新型コロナウイルス感染症拡大防止の措置を講じながら行う。
- (2) 企業等人権問題研修会は、実施時期や話題性を考慮し、興味・関心をもてるよう、内容を精選し、充実させることで人権意識を高める。今日的な課題について意欲的に実践が図れるよう啓発物を配布し、人権問題に触れる機会を作る。また、市内の事業者の参加に向け、事業所を訪問して周知を行う。

5 令和4年度の目標（値）

- (1) 日常生活において、自分事として、態度や行動で人権への配慮ができるよう人権感覚を養うような、研修・講座等の内容を設定する。
- (2) 文化講座、集会所文化講座作品展は、令和3年度よりも、参加延べ人数、来場者数が上回るよう、周知等を行う。

施策の大綱	2 生きる力を育み次代に繋げる桶川をつくる		
施 策	文化・芸術の振興・保存・継承（206）		
基本事業	文化財の保存と継承（2064）		
事業名	指定文化財保存管理交付金及び文化財保存事業費補助金交付事業		
予算額	796,000 円	決算額	305,030 円

1 事業概要

市内に所在する個人所有の指定文化財の適切な保存を図るため、その管理者等に対し、当該文化財の管理又は維持に要する経費として「桶川市指定文化財保存管理交付金交付要綱」に基づき交付金を交付した。また、文化財の修繕等の経費に対して「桶川市文化財保存事業費補助金交付要綱」に基づき補助金を交付した。

2 事業実績

（1）桶川市指定文化財保存管理交付金

区 分	件数	種別	種類	名 称	交付金額
国指定文化財 1 件	1	有形	彫刻	木造阿弥陀如来坐像（泉福寺）	10,000 円
県指定文化財 5 件	2	有形	建造物	桶川宿本陣遺構	7,500 円
	3	記念物	史跡	熊野神社古墳	7,500 円
	4	記念物	天然記念物	倉田の大カヤ（明星院）	7,500 円
	5	記念物	天然記念物	光照寺コウヤマキ	7,500 円
	6	旧跡	旧跡	梵語学者盛典の墓（知足院）	7,500 円
市指定文化財 22 件	7	有形	建造物	諏訪神社本殿	5,000 円
	8	有形	建造物	泉福寺山門並びに石造仁王像一棟二躯	5,000 円
	9	有形	建造物	矢部家住宅	5,000 円
	10	有形	工芸品	泉福寺の銅製釣灯籠	5,000 円
	11	有形	古文書	旧小針領家村松川家文書	5,000 円
	12	有形	古文書	旧五町台村渋谷家文書	5,000 円
	13	有形	古文書	旧倉田村荒井家文書	5,000 円
	14	有形	古文書	旧倉田村明星院領星野家文書	5,000 円
	15	有形	歴史資料	天満神社の木製の額(氷川天満神社)	5,000 円
	16	有形	歴史資料	紅花商人寄進の石燈籠二基	5,000 円
	17	有形	歴史資料	川辺の板石塔婆	5,000 円
	18	民俗	有形民俗	稲荷神社の力石	5,000 円
	19	民俗	有形民俗	天神道の道しるべ	5,000 円
	20	民俗	有形民俗	樋詰の道しるべ	5,000 円
	21	民俗	有形民俗	名号塔兼ねた道しるべ	5,000 円
	22	民俗	有形民俗	小針領家のささら獅子舞用具一式	5,000 円
	23	記念物	史跡	木戸跡（下）	5,000 円
	24	記念物	史跡	加納城址	5,000 円
	25	記念物	天然記念物	シイガシ	5,000 円
	26	記念物	天然記念物	多気比売神社の大シイ	5,000 円
	27	記念物	天然記念物	ムクロジ	5,000 円
	28	記念物	天然記念物	普門寺のしだれ桜	5,000 円
計	28				157,500 円

(2) 桶川市文化財保存事業費補助金

区 分	種別	種類	名 称	内 容	事業費	補助率	補助額
県指定	民俗	無形 民俗	松原の真言	締太鼓の 台座購入	12,100 円	1/4	3,050 円
市指定	有形	建造物	矢部家住宅	外壁修繕 工事	172,810 円	1/2	86,405 円
市指定	民俗	無形 民俗	三田原の万 作	手拭・足袋 の購入	116,150 円	1/2	58,075 円
計					301,060 円		147,530 円

※ 「松原の真言」は、事業費から県費補助金(6,000 円)を差し引いた残額の 1/2

3 上記 2 に対する評価

- (1) 交付金交付事業は、交付件数に変更がなかったことから交付額は前年度と同額で、文化財保護と保存についての意識啓発を図るとともに、所有者及び管理者の協力を得て、指定文化財を適切に管理することができた。
- (2) 補助金交付事業は、所有者等の実施する文化財の修理等の保存事業に伴う申請に基づき交付されるため、年度ごとの件数と交付額には変動が生じる。補助金の交付により、貴重な文化財の補修や用具購入等を行うことで、文化財の保存と継承に寄与することができた。

4 今後の取組方針

- (1) 交付金交付事業については、現在指定されている文化財への交付金を継続して交付する。また、新規に指定された文化財に対しては、その都度、対応する。
- (2) 補助金交付事業については、所有者及び管理者に対し、引き続き本制度の周知と積極的な活用の推進を図る。また、定期的に文化財の状態を把握する現況調査の過程において所有者との連携を深め、計画的な文化財の修理・保存につなげていく。

5 令和 4 年度の目標 (値)

- (1) 交付金交付事業について、交付対象である全 28 件に対し、交付金の交付を行う。
- (2) 補助金交付事業について、事前相談のあった 1 件 (シイガシ) に対し、補助金の交付を行うと共に、所有者及び管理者に対し、予算要求の時期に合わせて、翌年度に事業の実施予定があるかの照会と併せた本制度の周知を図る通知文を送付する。また、定期的に現況調査を実施し (特に荒天候後)、修繕等が必要な文化財の把握を行い、所有者等とその後の対応について協議を行う。

施策の大綱	2 生きる力を育み次代に繋げる桶川をつくる		
施 策	文化・芸術の振興・保存・継承（206）		
基本事業	文化財の保存と継承（2064）		
事業名	民俗芸能保存事業交付金交付事業		
予算額	570,000 円	決算額	480,000 円

1 事業概要

伝統的な民俗芸能の伝承団体に対して、その保存、伝承及び後継者育成に要する経費に充てるため、「桶川市民俗芸能保存事業交付金交付要綱」に基づき交付金を交付した。

2 事業実績

（1）桶川市民俗芸能保存事業交付金

No.	芸能の名称	団体の名称	交付金額	備考
1	岡村の囃子	岡村囃子連	30,000 円	
2	岡村の万作	岡村万作保存会	30,000 円	市指定
3	倉田の囃子	倉田囃子保存会	30,000 円	市指定
4	桶川市子どもばやし	桶川市本街子ども囃子保存会	30,000 円	
5	小針領家ささら獅子舞	小針領家獅子舞保存会	30,000 円	市指定
6	下日出谷の囃子	下日出谷囃子連	30,000 円	市指定
7	下日出谷の餅つき踊り	下日出谷餅搗踊り保存会	30,000 円	市指定
8	下日出谷の万作	下日出谷万作踊り保存会	30,000 円	市指定
9	諏訪の万作	諏訪万作保存会	30,000 円	市指定
10	前領家のささら獅子舞	前領家ささら獅子舞保存会	30,000 円	市指定
11	松原のささら獅子舞	松原ささら獅子舞保存会	30,000 円	市指定
12	松原の真言	松原真言保存会	30,000 円	県指定
13	松原の万作	松原万作保存会	30,000 円	市指定
14	三田原の万作	三田原万作連	30,000 円	市指定
15	夫婦獅子舞・囃子	武州桶川宿本街保存会	30,000 円	
16	薬師堂の囃子	薬師堂囃子連	30,000 円	
計			480,000 円	

（2）指定無形民俗文化財（民俗芸能）の動画作成

県及び市指定の無形民俗文化財13件（上記表の県・市指定分12件に市指定「三田原のささら獅子舞」を加えた13件）について、過去に記録保存を行った映像を短編編集し、桶川市公式動画チャンネルに掲載した。

3 上記2に対する評価

（1）令和3年度は前年度に引き続き、新型コロナウイルスの影響を受け、地域の祭礼等における民俗芸能の伝承活動は開催されなかったが、このような状況を考慮し、例年どおり交付金を交付することで、記録保存や道具の購入等の民俗芸能伝承団体の存続に寄与することができた。なお、近年活動を休止した3団体が、活動を再開する可能性を考慮し、その分の予算を確保していたが、再開の見込みが立たなかったことから、その分の予算は未執行となった。

(2) 新型コロナウイルスの影響に伴い、民俗芸能の伝承活動が2年ほど休止されており、今後の継承が危ぶまれることから、桶川市の民俗芸能を市内外の方々に知ってもらい、忘れられないように周知するとともに、担い手の方々の今後の活動再開の意欲となるように一助を担うことができた。

4 今後の取組方針

(1) 新型コロナウイルスの影響は今後も続くことが想定され、活動再開の時期の判断が難しいが、民俗芸能の伝承団体を支援するために、交付金事業は引き続き継続する。
(2) 県や民間の補助金、助成金の情報提供を行う。

5 令和4年度の目標（値）

(1) 交付対象の16団体に対して、交付金の交付を継続して実施する。
(2) 県や民間の補助金、助成金についての情報を収集し、伝承団体に情報提供を行う。

施策の大綱	2 生きる力を育み次代に繋げる桶川をつくる		
施 策	文化・芸術の振興・保存・継承（206）		
基本事業	文化財の保存と継承（2064）		
事業名	指定文化財調査事業		
予算額	190,000 円	決算額	73,300 円

1 事業概要

市内の指定及び未指定文化財の現状確認に伴う情報収集や新たな文化財指定（登録）に向けた文化財の調査を実施した。

2 事業実績

- (1) 川田谷地内の「川田谷狐塚稲荷社」について、敷地内にある社殿及び奉納物の調査を行った。御神体を含めた社殿の保存については今後も協議を継続することとし、奉納物の一部は歴史民俗資料館で預かった。



(1) 川田谷狐塚稲荷社



(2) 高橋稲荷大明神

- (2) 川田谷地内の「高橋稲荷大明神」について、今後の管理や移設等の相談を受け、調査を行った。社殿は文化財建造物及び民俗資料的な価値が高いと認められ、現地での保存が望ましい旨を伝えた。



(3) 足立遠元館跡伝承地にかかる神明宮

- (3) 市指定文化財(旧跡)「伝足立右馬允遠元館跡」に関連する神明宮(石祠)について、その所在確認を行った。もとは足立遠元の館跡と伝承される末広二丁目地内の現在は顕彰碑が建立されている付近にあったとされるもので、現在は寿二丁目の個人宅の敷地内に保存されている。



(4) 木戸跡(上)の標柱移設

- (4) 市指定文化財(史跡)「木戸跡(上)」について、民地内に設置されていた石碑が土地所有者の土地利用に支障が生じたことから、本来の位置に近い、中山道と県道川越栗橋線の交差点の歩道部に移設を行った。

(5) 市指定文化財(史跡)「原山古墳群」について、見学者の利便及び史跡と緑の保護を図ることを目的として、市内の緑化ボランティア団体の協力を得て、除草や枯枝の収集等の環境整備を計3回実施した。



(5) 原山古墳群の環境整備



(6) 第63回関東ブロック民俗芸能大会

(6) 県指定文化財(無形民俗)「松原の真言」について、山梨県甲府市で開催された第63回関東ブロック民俗芸能大会に埼玉県を代表して、伝承団体である松原真言保存会が出場し、その芸能を披露した。

3 上記2に対する評価

(1)～(3)については、文化財調査の実施により、今までに知り得なかった新たな知見を得ることで、文化財保護につながる貴重な情報を得ることができた。指定のための調査は、新型コロナウイルス感染拡大防止により実施の機会を得られなかった。
(4)(5)については、桶川市の歴史を語り継ぐ貴重な文化財を保存し継承することで、見学者の見識を深めるという文化財の活用的一端を担うことができた。
(6)については、新型コロナウイルスの影響により民俗芸能の公演活動の自粛が続く中、伝統ある大会に参加することで、桶川市の民俗芸能を県外の方に披露することができたとともに、継承活動に対する保存会の担い手各人のモチベーションの維持につながることができた。

4 今後の取組方針

(1) 調査継続中の文化財については、引き続き調査を実施し、文化財指定をする。
(2) 新たな指定候補の発見や情報収集に努め、指定候補物件への引き上げを検討するための基礎資料を随時更新する。
(3) 指定に向けた調査等の件数を増やす。
(4) 文化財の適切な保存と活用のために「桶川市文化財保存活用地域計画」の策定及び地方公共団体の地方登録文化財制度の創設に取り組む。

5 令和4年度の目標(値)

(1) 調査を継続中の文化財1件について、新型コロナウイルスの感染状況に留意しながら、指定に向けた調査を実施する。
(2) 新たな指定候補の発見や情報収集に努め、随時基礎資料を作成し指定候補物件へ追加する。
(3) 古文書等の個人所蔵の指定済の文化財について、新型コロナウイルスの感染状況に留意しながら、現在の保管状態を確認するための調査を実施する。
(4) 「桶川市文化財保存活用地域計画」の策定及び地方公共団体の地方登録制度の創設に向けて、埼玉県や他市町村から情報収集を行い、策定、創設のための体制整備を行う。

施策の大綱	2 生きる力を育み次代に繋げる桶川をつくる		
施 策	生涯学習・生涯スポーツの充実（204）		
基 本 事 業	多様な学習機会の提供（2041）		
事 業 名	管理運営経費		
予 算 額	226,017,000 円	決 算 額	225,946,554 円

1 事業概要

図書館サービスの充実を図るため、図書館の維持管理業務を行った。

2 事業実績

（1）貸出者数、貸出冊数の推移

		中 央	桶 川	川田谷	坂 田	4 館合計 (①)	開館日数 (②)	1 日あたり (①÷②)
貸出者数 (人)	令和元年度	113,286	12,405	4,003	25,840	155,534	1,599	97
	令和2年度	78,629	9,847	3,527	19,321	111,324	1,094	102
	令和3年度	99,594	11,867	4,118	25,600	141,179	1,312	108
貸出冊数 (冊)	令和元年度	329,102	36,681	14,270	94,980	475,033	1,599	297
	令和2年度	242,387	29,982	13,389	72,807	358,565	1,094	328
	令和3年度	305,088	36,723	15,041	97,692	454,544	1,312	347

（2）OKEGAWA h o n プラス+イベントスペースにおいて、展示イベントを12回実施した。また、図書への関心を深めるため、紙媒体で『OKEGAWA h o n プラス+通信』（大人向け）と『OKEGAWA h o n プラス+子ども通信』（児童向け）を各11回発行した。参加型のイベントとして、近隣の施設を含めたウォークラリーも開催した。

3 上記2に対する評価

（1）令和3年度の4館合計の開館日数は、1,312日で、令和2年度より218日増加した。1日あたりの図書の貸出者数は108人、貸出冊数は347冊と令和2年度より増加した。全館指定管理者で運営を行った令和3年度の利用についての総合満足度は、令和2年度と同様の72%であった。

（2）コロナ禍の為、OKEGAWA h o n プラス+のイベントはほとんどが展示形式であったが、参加型イベントでは、アンケートで参加者の96%以上が「満足」と回答しており、好評だった。

4 今後の取組方針

（1）コロナ禍においても市内4館の安定した運営を図り、情報共有を密にし、均質なサービスの提供を行う。

（2）指定管理の新たな取組みによる自主事業の開催の充実を図る。

5 令和4年度の目標（値）

（1）利用者ニーズに合った図書資料の充実を図り、貸出者数142,000人を目指す。

（2）展示等の充実を図り、利用者アンケートの総合的な満足度80%以上を目指す。

施策の大綱	2 生きる力を育み次代に繋げる桶川をつくる		
施 策	生涯学習・生涯スポーツの充実（204）		
基 本 事 業	多様な学習機会の提供（2041）		
事 業 名	図書館業務推進事業		
予 算 額	31,486,000 円	決 算 額	31,392,414 円
1 事業概要			
図書資料を購入し、幅広い年齢層を対象に事業を実施した。			
2 事業実績			
(1) 図書資料の購入			
摘 要	購入冊数	(前年比較)	購入金額
図書資料	6,144 冊	増 15 冊	10,357,356 円
		その他資料（地図・法令集等）	購入金額 35,640 円
(2) セカンドブック事業の実施 実施人数 614 人 金額 809,874 円			
(3) 読み聞かせボランティア養成講座 ※			
(4) おはなし会及び対面朗読 ※			
(5) ボランティアとの協働事業 ※			
※新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から中止			
3 上記2に対する評価			
(1) 限られた予算の中で、6,144 冊の資料を購入した。全体で 2,857 冊の図書資料を除籍し、うち比較的程度の良い本 2,129 冊をリサイクル本として利用者に提供した。			
(2) 小学1年生を対象に本を1冊プレゼントするセカンドブック事業を継続実施し、本に親しむきっかけ作りを支援した。			
4 今後の取組方針			
(1) 図書館に所蔵する図書資料の充実を図る。			
(2) 学校と連携して小学1年生を対象に「セカンドブック事業」を実施し、本に親しむきっかけ作りを支援する。			
(3) 感染症拡大防止策を講じながら、ボランティア養成講座やおはなし会の開催について検討する。			
5 令和4年度の目標（値）			
・貸出者数 142,000 人を目指し、利用者ニーズに合った展示や図書資料の充実を図る。			
・図書充足率（人口1人当たり）			
令和2年度実績の埼玉県平均 3.19 冊を超える。（令和2年度末本市 3.09 冊）			

施策の大綱	2 生きる力を育み次代に繋げる桶川をつくる		
施 策	生涯学習・生涯スポーツの充実（204）		
基本事業	人材の育成と活用（2043）		
事業名	スポーツ指導者育成事業		
予算額	2,444,000 円	決算額	1,846,020 円

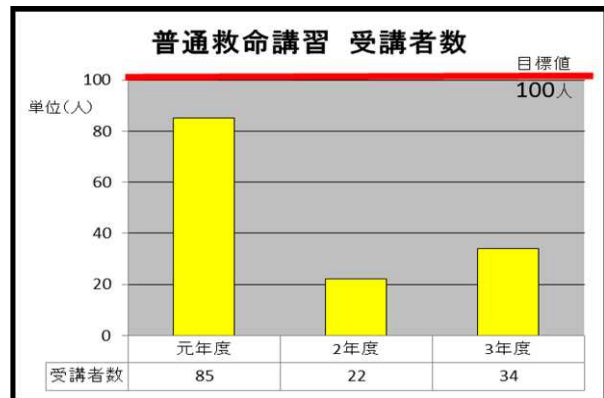
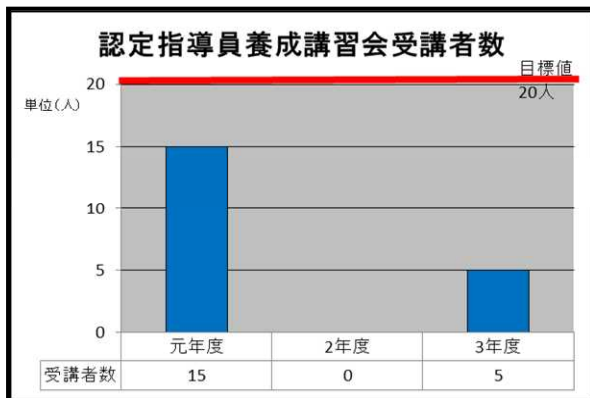
1 事業概要

市民の健康増進に寄与するスポーツ指導者の育成支援を行った。

2 事業実績

（1）桶川市スポーツ推進委員、桶川市スポーツ少年団及び桶川市スポーツ協会に情報提供を行い、例年実施事業に加え、東京 2020 オリンピック聖火リレーや、埼玉県レクリエーション大会などの活動を支援した。＜報酬：1,656,000 円、費用弁償：190,020 円＞

（2）桶川市スポーツ推進委員、スポーツ協会加盟団体を対象に「普通救命講習」を実施した。（受講者：34 人）



3 上記2に対する評価

（1）新型コロナウイルス感染症の影響により、講習会を一部中止したため、受講者数の目標を達成出来なかった。

（2）各団体向けに「普通救命講習」を予定していたが、新型コロナウイルス感染症の影響により2回の講習が中止となった。

しなかしながら、講習を実施したスポーツ推進委員とスポーツ協会加盟団体はAEDの取り扱いや応急手当について知識を深めることが出来た。

4 今後の取組方針

（1）スポーツ指導者を対象とした研修を実施し、指導者としての資質の向上を図る。

（2）「普通救命講習」をスポーツ推進委員、スポーツ協会加盟団体及びスポーツ少年団、学校体育施設開放利用団体に継続的に実施する。また、過去に受講された方にも再度受講を促し、指導者としての資質の向上を図る。

5 令和4年度の目標（値）

新型コロナウイルス感染症対策を行いながら、講習を実施する。

（1）認定指導員養成講習会受講者数 20人（20回実施）

（2）普通救命講習受講者数 100人（4回実施）

施策の大綱	2 生きる力を育み次代に繋げる桶川をつくる		
施 策	生涯学習・生涯スポーツの充実（204）		
基本事業	活動団体支援の充実（2044）		
事業名	スポーツ団体への支援事業		
予算額	3,840,000 円	決算額	3,712,936 円

1 事業概要

生涯スポーツの推進及び健康増進を図るため、各種スポーツ団体に支援を行った。

2 事業実績

（1）スポーツ団体等の支援・育成のため、以下のとおり補助金を交付した。

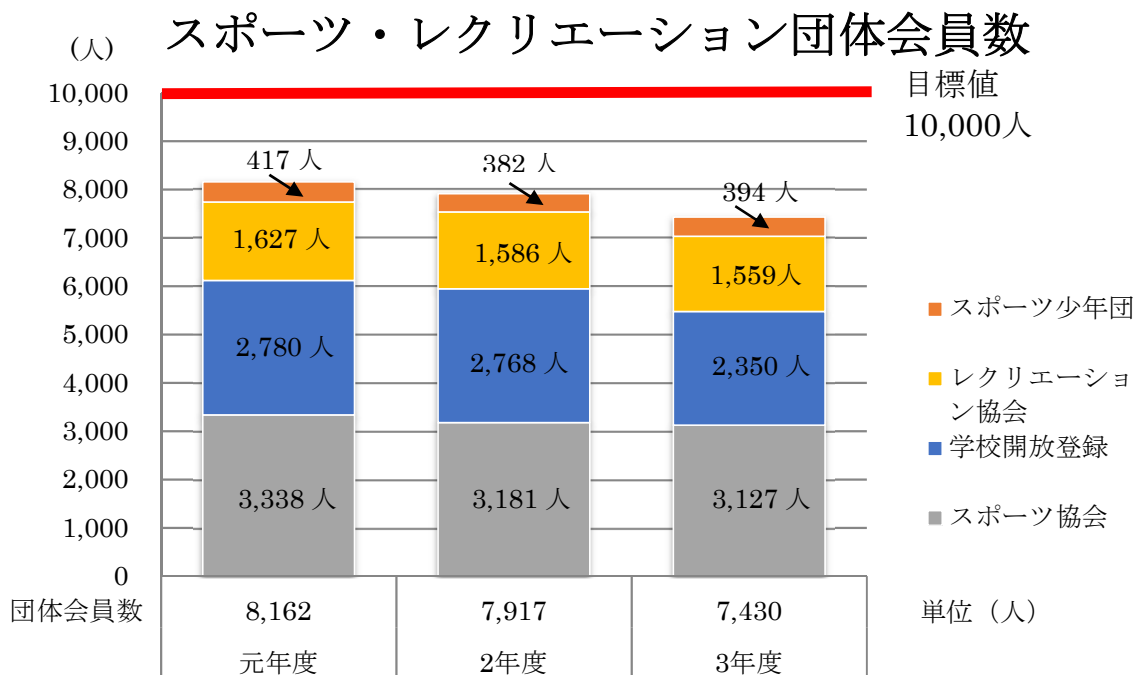
件 名	金 額
桶川市スポーツ協会補助金	1,700,000 円
桶川市スポーツ少年団補助金	560,000 円
桶川市レクリエーション協会補助金	240,000 円
桶川市スポーツ推進委員連絡協議会補助金	240,000 円

（2）スポーツの振興を図るためのイベントを実行委員会形式で実施したが、一部事業は新型コロナウイルスの影響で中止となった。（駅伝は中止判断前に支出あり）

件 名	金 額
地区別体育祭運営交付金（中止）	-
埼玉県レクリエーション大会交付金	300,000 円
スポーツフェスティバル交付金	400,000 円
駅伝競走大会交付金（中止）	210,936 円

（3）スポーツ・レクリエーション団体会員数の推移

	令和元年度	令和2年度	令和3年度
会員数	8,162 人	7,917 人	7,430 人



3 上記2に対する評価

- (1) 各種活動団体に補助金を交付することにより、活動を支援し、生涯スポーツの普及・促進に寄与することができた。
- (2) 新型コロナウイルス感染症の影響により、地区別体育祭とオケちゃん駅伝競走大会は中止となったが、埼玉県レクリエーション大会とスポーツフェスティバルは、規模を縮小するなど新型コロナウイルス感染症防止対策を徹底し、開催することができた。
- (3) スポーツ・レクリエーション団体会員数は減少し、目標値の10,000人に届かなかったことから、会員募集の周知や体験会の実施など、更なる会員数の増加に繋がるような取組が必要である。

4 今後の取組方針

- (1) 各種活動団体に対する支援並びにイベントを通じて、多世代間の交流を行い、生涯スポーツの普及・推進を図り、スポーツ・レクリエーション団体会員数の増加及び活動の充実を目指す。
- (2) 学校開放備品の充実、メンテナンスを行い、スポーツ・レクリエーション団体が活動しやすい環境を作り、会員数の増加を目指す。
- (3) 埼玉上尾メディックスや日本体育大学、埼玉西武ライオンズとの相互連携協定に基づき、スポーツ教室や研修会への教職員や学生の派遣により、生涯スポーツの普及・推進に繋げる。

なお、日体大との連携事業としては、「ウォーキング教室」をはじめ、「スポーツフェスティバル」などのイベントでの連携を推進する。

5 令和4年度の目標（値）

スポーツ・レクリエーション団体会員数 5年後（令和9年度） 10,000人

※内訳（スポーツ協会 4,000人【3,127人】、スポーツ少年団 600人【394人】、レクリエーション協会 1,900人【1,559人】、学校開放団体 3,500人【2,350人】）

【 】内は、令和3年度の実績。

施策の大綱	2 生きる力を育み次代に繋げる桶川をつくる		
施 策	生涯学習・生涯スポーツの充実（204）		
基本事業	施設の充実（2045）		
事業名	スポーツ施設維持管理事業		
予算額	70,583,000 円	決算額	70,567,631 円

1 事業概要

スポーツ関連施設の適切な維持管理を行い、生涯スポーツの普及、推進を図った。

2 事業実績

（1） 体育施設の管理＜施設管理委託 68,861,000 円ほか＞

サン・アリーナ、舎人スポーツ・パーク、新小針領家グラウンド、総合運動場の体育施設について、その管理、受付業務、利用料金収納業務等を指定管理者である（公財）桶川市施設管理公社に委託し、体育施設の維持管理を行った。

＜利用状況＞

区 分	令和元年度	令和2年度	令和3年度
サン・アリーナ	243,535 人	167,708 人	206,519 人
舎人スポーツ・パーク	9,434 人	11,156 人	11,168 人
新小針領家グラウンドA	2,303 人	1,525 人	2,366 人
新小針領家グラウンドB	4,233 人	4,075 人	4,923 人
総合運動場	20,434 人	12,676 人	16,652 人

（2） 学校体育施設開放事業

＜AED借上料：315,048 円、夜間照明維持管理 405,000 円ほか＞

すべての小・中学校において、学校体育施設開放事業として、施設を開放し、市民のスポーツ活動の拠点として利用される施設の維持管理を行った。

＜登録状況＞

区 分	令和元年度		令和2年度		令和3年度	
	団体数	利用人数	団体数	利用人数	団体数	利用人数
小中学校施設利用団体	132 団体	2,517 人	125 団体	2,512 人	125 団体	2,166 人
夜間照明施設利用団体	8 団体	263 人	7 団体	256 人	8 団体	184 人

3 上記2に対する評価

（1）既存の体育施設については、指定管理者である（公財）桶川市施設管理公社による備品の更新や必要に応じた補修及び点検等により、良好な維持管理を行った。

また、（公財）桶川市施設管理公社が行った「サン・アリーナ」の利用者アンケート調査の結果として、88%（令和2年度86%）の利用者から「満足」との回答があった。

なお、各施設の利用状況は、コロナ禍での生活様式が定着したことにより、コロナ前と同様の状況に戻りつつある。

(2) 学校体育施設開放事業については、全ての小・中学校に設置しているAEDや、桶川中学校に備え付けてある夜間照明設備の維持管理・点検等により、良好な維持管理を行った。
4 今後の取組方針 (1) 昨年度に引き続き、新型コロナウイルス感染防止対策の徹底と、利用者の新型コロナウイルス感染防止に対する意識啓発を図りながら、安心・安全な施設運営を行う。 (2) 体育施設・学校体育施設について、備品の更新、施設の補修、点検等の維持管理を行う。 (3) 総合運動場の環境を改善する改修事業を継続する。
5 令和4年度の目標（値） (1) 体育施設・学校体育施設の利用環境を良好な状態に維持する。 (2) 総合グラウンド構想に基づき、既存の屋外体育施設である総合運動場の環境改善に繋がる改修事業を継続的に実施する。

施策の大綱	2 生きる力を育み次代に繋げる桶川をつくる		
施 策	就学前教育の支援・充実（201）		
基本事業	家庭の教育力の向上（2011）		
事業名	幼児・家庭教育セミナー事業		
予算額	60,000 円	決算額	60,000 円

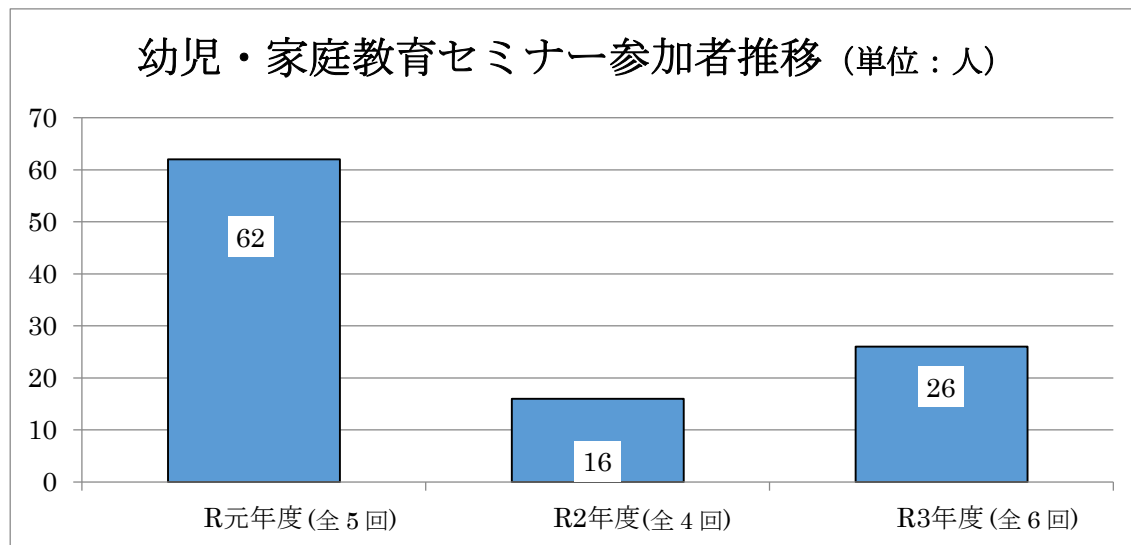
1 事業概要

幼児・小学生をもつ親を対象に「幼児教育」「家庭教育」について学び、活かすことができる保育付きの講座を企画した。講座は、実技と教養を1セットとし、3期計6回実施した。

2 事業実績

期・回数	講座名	実施日	定員	参加人数
1 期	1 産後の骨盤エクササイズ	6/9	15	8 (2)
	2 育児中のママの心のほぐし方	6/23		7 (1)
2 期	1 育児疲れの体をほぐしてぐっすり眠ろう	11/2	20	2 (1)
	2 ママと一緒にのおやつタイム	11/18		0 (0)
3 期	1 入学式コーデ、二の腕対策	1/18	20	5 (2)
	2 子どもの自立を促すほめ方・叱り方	2/1		4 (2)
計			55	26 (8)

() 内は保育児数

**3 上記2に対する評価**

受講申込み者数が定員を割り込んだ。このことは、新型コロナウイルス感染症による影響が大きい。特に2期第2回の講座は、当日キャンセルによるものとなっている。

4 今後の取組方針

令和2年度から実技と教養をセットとした取り組みをはじめ、前年度比 62.5%増と成果がみられ始めていることから、コロナ対策を講じながら事業を継続する。

5 令和4年度の目標（値）

新型コロナウイルス感染症による影響がいまだに大きいと考えられることから定員の50%超、総数30人を目標値とする。

施策の大綱	2 生きる力を育み次代に繋げる桶川をつくる		
施 策	生涯学習・生涯スポーツの充実（204）		
基本事業	多様な学習機会の提供（2041）		
事業名	講座開催事業		
予算額	1,215,000 円	決算額	1,175,550 円

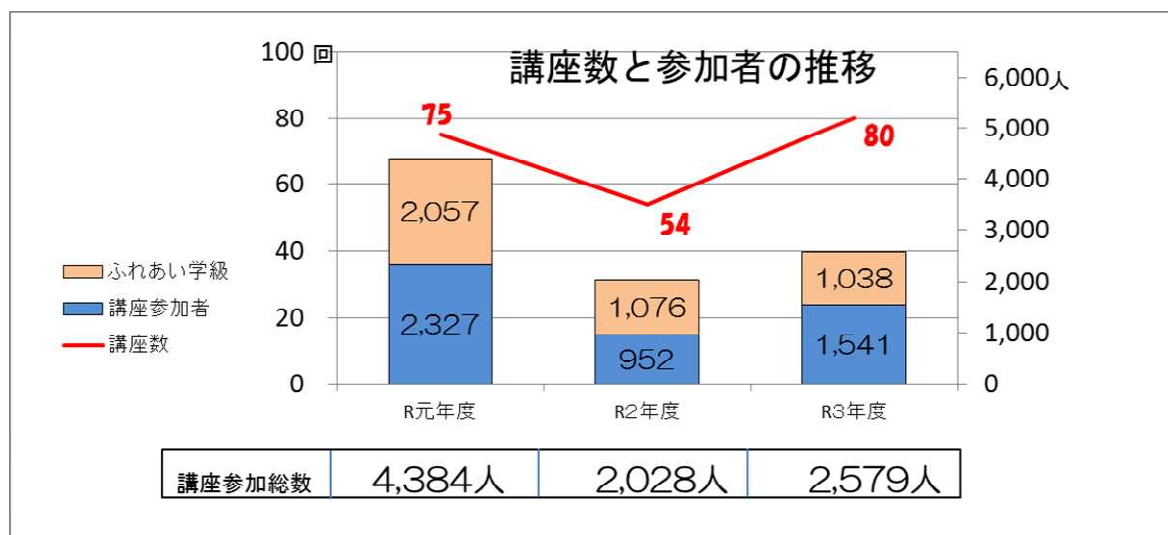
1 事業概要

学習意欲のある市民の多様なニーズを捉え、様々な機会に、時代に即した質の高い講座を提供した。

2 事業実績

新型コロナウイルス感染症による影響が残る中、感染予防対策をしながら4館合計 80 講座（ふれあい学級を含む）を企画し、新型コロナ対策により1講座が中止となったが 79 講座を実施。夏休み期間中の「子どもワールド」のほか、クリスマスやひな祭りに合わせた講座を展開した。

また、既存サークルの活性化を目的とした「笑来楽習」企画は3年目となり、発表の場として展示、一日体験講座の開催、動画作成・配信にも取り組んだ。



3 上記2に対する評価

今年度は、80 講座を企画し、ほぼすべてを実施することができた。しかしながら、募集定員を減らし、また、調理室で行う講座は室内飲食が不可の状態が続いている。このことから、公民館事業の本来の役割（つどう、まなぶ、むすぶ）を果たすことができていない。このような中ではあるが、新規サークル3団体が発足した。

4 今後の取組方針

- （1）自己表現、自己実現、地域課題解決等のため、講座を開催する。
- （2）世代間、地域間の交流を図る講座の開催、サークル等団体の活動を支援する。
- （3）他の社会教育関係機関・関係者とのコラボレートによって、公民館活動の充実を図る。

5 令和4年度の目標（値）

コロナ感染による影響を注視しつつ、多様な「学び」、活動成果の発表の場として、新規サークル3団体の結成及び「サークル発表会」の開催を目指す。

施策の大綱	2 生きる力を育み次代に繋げる桶川をつくる		
施 策	生涯学習・生涯スポーツの充実（204）		
基本事業	多様な学習機会の提供（2041）		
事業名	公民館業務運営事業		
予算額	16,243,000 円	決算額	14,048,747 円

1 事業概要

市民に社会教育活動の場を提供するために必要な施設の管理運営を行った。

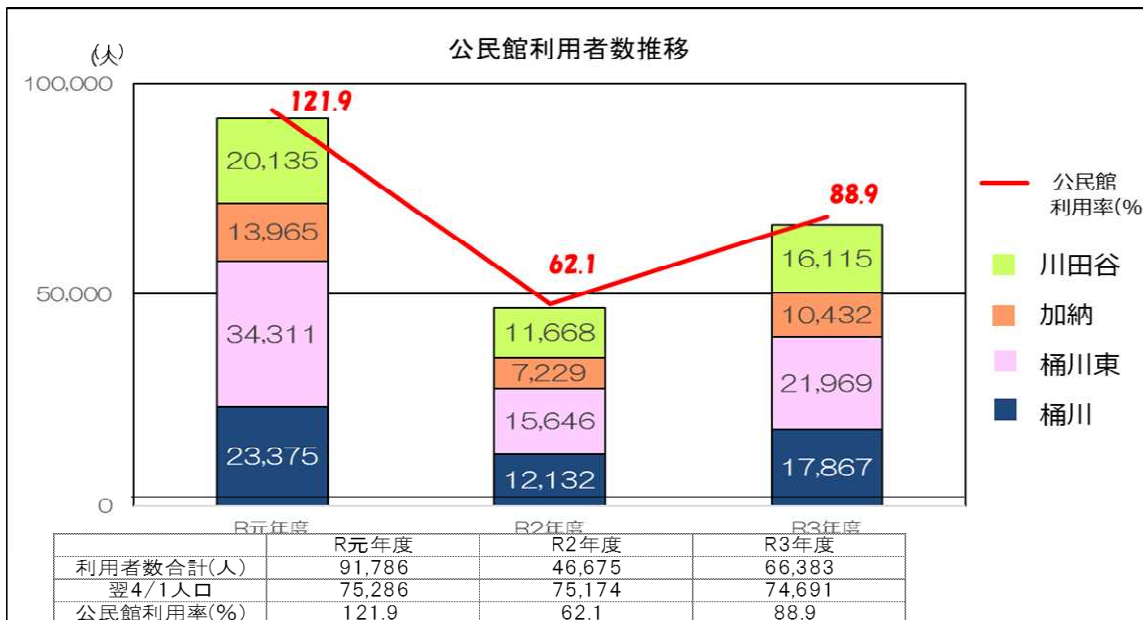
2 事業実績

（1）公民館運営審議会委員の研修

例年実施している公民館運営審議会委員、社会教育委員、生涯学習推進会議委員による合同研修会は、「社会教育を考える」と題する講演を大学教授に依頼したが、今年度もコロナ感染症の影響で資料送付による研修となった。

（2）公民館利用の状況（利用者推移と利用率）

令和3年度は、昨年度に引き続き8/2～9月末までの間、調理室や夜間利用の制限など、コロナ感染拡大予防策を行うとともに、利用者の自粛の影響により、利用者数、利用率ともにコロナ以前と比較し減少したままとなった。



3 上記2に対する評価

公民館利用率（年間公民館利用者数/市人口）は88.9%。目標とした65%を上回った。

4 今後の取組方針

- （1）「公民館利用の手引き」に基づき、新規利用者の受け入れを行っていく。
- （2）各サークルともメンバーの高齢傾向が認められるため、改正した公民館サークル育成要綱により、育成を行うとともに、既存サークルによる「学びの循環」をめざし新規会員向けの事業（「笑来楽習」等）を引き続き実施する。

5 令和4年度の目標（値）

コロナ対策の実行と啓発、館内感染発生防止を継続し、前年度公民館利用率実績値(88.9%)を上回る100%を目標とする。

施策の大綱	2 生きる力を育み次代に繋げる桶川をつくる		
施 策	生涯学習・生涯スポーツの充実（204）		
基 本 事 業	施設の充実（2045）		
事 業 名	生涯学習センター管理事業		
予 算 額	28,970,000 円	決 算 額	27,198,040 円

1 事業概要

生涯学習実践の拠点施設として、川田谷生涯学習センターを構成する歴史民俗資料館、川田谷公民館及び川田谷図書館が健全に機能を発揮し、市民の学習の場を提供できるよう、施設の維持管理を行った。

2 事業実績

利用者の安全及び施設利用環境の改善に関わり、主に以下の事業を実施した。

施設名等	予算科目	内容	決算額
(1)川田谷生涯学習 センター共通	委託料	設備保守委託	17,728,010 円
		建築設備定期調査報告等業務委託	148,500 円
	需用費(施設修繕料)	給水管屋外漏水修繕	208,450 円
		加圧給水ポンプ修繕	352,000 円
(2)歴史民俗資料館	備品購入費	除湿機購入	2,197,800 円
(3)川田谷公民館	需用費(施設修繕料)	陶芸窯修繕	96,800 円

3 上記2に対する評価

- (1) 施設の利用者の安全管理や利用に関わる施設の改善を図ることができた。
- (2) 歴史民俗資料館及び川田谷公民館の利用環境の改善を行うことができた。

4 今後の取組方針

令和4年度及び令和5年度に実施する川田谷生涯学習センターの大規模改修工事により、施設の環境整備を図る。

5 令和4年度の目標(値)

- (1) 川田谷生涯学習センターの大規模改修工事を関係課と協議し、円滑に改修工事を進める。

施策の大綱	2 生きる力を育み次代に繋げる桶川をつくる		
施策	文化・芸術の振興・保存・継承（206）生涯学習・生涯スポーツの充実（204）		
基本事業	文化財の保存と継承（2064）		
事業名	資料調査・収蔵事業		
予算額	875,000 円	決算額	862,960 円
1 事業概要			
地域の歴史、文化に関わる資料について、調査、収集を行い、それらを収蔵した			
2 事業実績			
(1) 資料収集事業 [消耗品費 183,050 円]			
ア 有形資料：市内の写真資料、大根つき、棒屋資料			
イ 無形資料：多気比賣神社正月準備、東光寺初不動、本学院節分行事 (その他行事や民俗芸能等は、新型コロナウイルス感染症拡大により中止)			
ウ 歴史資料：坂田村関係文書、桶川町関係文書、教科書、図書、冊子			
(2) 資料調査事業			
ア 歴史資料調査：本学院関連資料			
イ 無形文化財調査：本学院採燈護摩(その他行事や民俗芸能等は、新型コロナウイルス感染症拡大により中止)			
(3) 資料管理業務 [委託料 679,910 円]			
ア 特別収蔵庫の酸除去用浄化剤の交換を委託にて実施した。 実施期間：7月1日から7月28日			
イ 収蔵環境調査を委託にて実施した。 実施期間：7月1日から7月28日 実施場所：展示室、特別収蔵庫、一般収蔵庫			
ウ 燻蒸・殺虫業務を委託にて実施した。 実施期間：3月8日から3月11日 燻蒸・殺虫の対象とした資料：民具、古文書、歴史資料等			
3 上記2に対する評価			
本事業は、歴史民俗資料館の最も基礎的な業務として実施した。			
(1) 資料収集事業は、依頼に基づき新規資料を収蔵することにより、文化財の保護に繋がった。			
(2) 資料調査事業は、調査を継続的に実施した。また、写真、映像資料等のデジタル保存を行うことで、貴重な資料を安全に保存できる環境が整った。			
(3) 資料管理業務は、環境調査の結果等を踏まえ、一般収蔵庫、特別収蔵庫及び展示室の資料について、燻蒸・殺虫業務を実施し、適切な収蔵環境を確保した。			
4 今後の取組方針			
(1) 資料の収蔵環境を整えて、適切な管理を行うために環境調査を行う。			
(2) 資料管理システムを活用し、収蔵資料の情報公開をホームページにより行う。			
5 令和4年度の目標(値)			
(1) 大規模改修工事期間中において、収蔵資料を適切に管理する。			
(2) 資料管理システムを資料管理の核とし、未登録データの登録や既存データへのデジタル画像付与などの業務を進める。			

施策の大綱	2 生きる力を育み次代に繋げる桶川をつくる		
施 策	文化・芸術の振興・保存・継承（206）生涯学習・生涯スポーツの充実（204）		
基 本 事 業	多様な学習機会の提供（2041）		
事 業 名	教育普及事業		
予 算 額	169,000 円	決 算 額	162,198 円

1 事業概要

桶川の歴史と文化を、展示及び講座を通じて市民に広く伝えた。

2 事業実績

（1）展示事業 企画展・資料展示〔消耗品費 92,198 円 〕

テーマ	開催日	参観者数
「新指定文化財展」	6 月 1 日 ～ 6 月 27 日	210 人
「町と村の夏まつり」	7 月 10 日 ～ 8 月 22 日	296 人
「地租改正地引絵図に見る桶川」	9 月 18 日 ～ 9 月 20 日	43 人
「秋の祭礼とささら獅子舞」	9 月 21 日 ～ 10 月 31 日	268 人
「職人は語る一用(もち)いの美と道具の世界一」	12 月 19 日 ～ 2 月 6 日	260 人

（2）講座事業

ア 特別文化財講座

テーマ及び講師	開催日	参加者数
「速報若宮 I 遺跡—方形周溝墓から古墳へ—」橋本富夫氏	4 月 4 日	28 人
「暮らしを支える職人たち」橋本富夫氏	1 月 9 日	31 人
「川田谷古墳群出土の埴輪をみる」山崎武氏	3 月 27 日	35 人

イ 展示解説講座

テーマ及び講師	開催日	参加者数
「川田谷古墳群と栗原司氏の足跡」資料館職員	3 月 27 日	38 人

ウ 資料解説講座

テーマ及び講師	開催日	参加者数
「足立坂東観音霊場参詣大絵馬に見る江戸庶民の信仰」板垣時夫氏	6 月 6 日	20 人
「桶川宿古絵図から知る桶川宿の姿」重田正夫氏	6 月 13 日	30 人
「瓦屋の仕事」宮部瑛理氏	1 月 9 日	31 人
「大工道具の解説・実演 かんながけの体験」島村等氏	1 月 16 日	15 人

（3）連携交流事業

ア 博学連携事業

事業名	参加校	参加者数
小学校 3 年生社会科に関わる見学	市内 4 校	335 人
小学校 2 年生生活科に関わる見学	市内 1 校	38 人

イ その他の連携交流事業

テーマ	開催日	参加者数
夏休み子どもワールド「紅花染め体験」	8 月 20 日	15 人
市民大学講義「桶川の歴史」	1 月 13 日	30 人

(4) 展示参観者数

摘 要	令和元年度	令和2年度	令和3年度
入館者数(人)	6,730	2,109	2,144
開館日数(日)	258	206	258
1日あたり入館者数(人)	26.1	10.2	8.3

3 上記2に対する評価

近年、常設展示の更新が行われていないことから入館者数が伸び悩んでいる中ではあるが、企画展示として取り組んだ「職人は語る一用(もち)いの美と道具の世界」は、資料館がこれまでに収集してきた資料や職人たちからの聞き取り調査をもとに実施したこと、コロナ禍といえども多くの来館者を得るとともに、文化財・博物館関係者や職人からも高い評価が得られた。

毎年実施している民俗展示では、「町と村の夏まつり」を主題に、人びとの間で受け継がれている民俗行事を取り上げた。展示では、実物資料のほかに昨今、新型コロナウイルス感染症拡大に伴い中止となっている民俗行事を映像資料として公開し、多くの方から好評を得るとともに、民俗行事の再開をのぞむ声が多数寄せられた。

その一方で、新型コロナウイルス感染症拡大防止対策のため、令和2年度に引き続き入館者数は大きく減少した。

連携交流事業として取り組んでいる博学連携事業は、収蔵資料を活用し実体験を重視する内容としているが、新型コロナウイルス感染症への対応から密集を避け、資料の取り扱いにも慎重さが要求されたことから、大きな負担となった。しかし、引率の教諭や社会教育指導員の協力によって例年と変わらない内容で実施できたことは、当該学年が1度しかないことを考えると非常に良かったものと思われる。

4 今後の取組方針

- ① 講座の開催にあたって、引き続き地域の課題、テーマを積極的に取り上げる。
- ② 市民団体、青少年団体、市内公共施設を管理する指定管理者などとの連携による事業展開を進める。
- ③ 関係法令の改正を受け、観光振興の面からも市内外への情報発信をホームページにて積極的に進める。
- ④ 常設展示リニューアルに向けて展示の内容と展示資料を決定する。
- ⑤ スマートフォンアプリ「にっぽん風景なび」を活用して市内文化財を周知する。
- ⑥ 新型コロナウイルス感染症への対応を図り、事業への影響を最小限に抑える。

5 令和4年度の目標(値)

- ① 講座事業―出前講座を含め年間8回以上
- ② 展示業務に代わりデジタルアーカイブの充実を図る。
- ③ 小・中学校とも連携を図りながら、地域学習を深める。

新型コロナウイルス感染症の恐怖に脅かされて、すでに3年あまりが過ぎました。いったんは、コロナ禍前の日常を取り戻しつつありましたが、安心も束の間、再び第7波が猛威を振るって、押し寄せてきました。まだまだ不安と緊張の日々が続きますが、桶川市教育委員会におかれましては、そうした状況を真摯に受け止め、学校等を様々な面から支援していることに敬意を表します。以下、6つの基本目標ごとに特筆すべき点について意見を述べさせていただきます。

I 確かな学力の育成と質の高い教育環境の充実

- ・GIGAスクール構想の実現に向けて、ICT教育が加速度的に進展していることが伺えます。特に、1人1台端末を効果的に活用するための教職員研修を計画的に実施する中で、すべての教職員のスキルアップを目指して取り組まれたことは、「令和の日本型学校教育」の構築につながる大きな成果だと考えます。また、業務改善や効率化を図るための校務支援システム（校務系ネットワーク）を導入されたことは、児童生徒と向き合う時間の確保や勤務負担の軽減と長時間勤務の縮減にもつながり、今後の学校における働き方改革のさらなる推進につながっていくものと考えます。（p 6・7）

- ・市費負担によるマンパワーの投入に積極的に取り組んでいることが伺えます。特に、上述にかかわるICT支援員の新規の配置によって、学習効果の向上と併せて、教職員の活用技術の向上にもつながるものと考えます。（p 10・11）

II 豊かな心の育成と人権意識の高揚

- ・すべての小中学校に市費負担による相談員を配置することによって、相談しやすい環境が整備されたことによって、いじめ等にかかわる相談件数の大幅な増加につながったものと考えます。特に、小学校におけるスマイル相談員の全校配置によって、相談件数（190件→398件）が倍増し、よりきめ細やかな対応や小中学校の連携強化につながっていったものと考えます。また、いじめの認知と解消のための様々な事業に積極的に取り組まれていることが伺えます。今後は、事業の取組後の検証・改善を通して、いじめ解消率（令和4年3月現在＝約60％）が、さらに向上していくことを期待します。（p 14・15・16）

III 健やかな体（からだ）の育成

- ・コロナ禍でさまざまな制限があったことと思いますが、オンラインを活用した研修会（体力向上、保健衛生管理、食育の推進等）の積極的な開催を通して、教職員の資質・能力の向上につながっていくものと考えます。歩みを止めることなく、「今できること」に、皆で知恵を出し合って挑戦することが、児童生徒の健やかな成長につながるものと考えます。（p 22・23）

IV 家庭・地域の教育力の向上

- ・感染対策をはじめとした様々な工夫を通して、令和2年度に実施できなかった家庭教育力の向上を目指した事業（PTAリーダー研修会やPTA家庭教育研究会等）を、令和3年度に実施できたことは、保護者への啓発につながったものと考えます。コロナ禍での開催に向けて、いろいろな苦労があったことと推察いたします。（p 34・35）

- ・昨年度も述べましたが、すべての小学校で桶川市放課後子供教室を開催していることに、地域の教育力の高さを伺い知ることができます。このような継続的な取組が学校・家庭・地域が三位一体となって、子供たちを育てていくための協力体制の構築につながっていくものと考えます。令和2年度以上に参加児童数、活動日数が増え、充実した事業になっているものと思います。（p 38）

V 生涯にわたる学びとスポーツの支援

- ・職員出前講座、市民大学、パソコン講習等、様々な生涯学習に関する事業が多岐にわたって計画・実施されています。桶川市教育委員会が生涯学習に力を入れて取り組まれていることを伺い知ることができます。（p 42・43・44・45・46・47・50・51・52・他）

VI 伝統文化・芸術の振興と文化財の保存・活用の推進

- ・新型コロナウイルス感染症の影響で活動は縮小していますが、文化財や民俗芸能の保存と継承に、地道に継続的に取り組まれていることを伺い知ることができます。引き続き、調査や情報収集を地道に進めながら、文化財指定を目指すとともに、小中学生をはじめ、市民・県民の皆様、桶川市の伝統文化等を発信していただくことを切に願います。（p 57・58）

中学生社会体験チャレンジの中止、人権教育・啓発講演会の中止、桶川市民大学の受講者を削減しての開催、「社会教育を考える」合同研修会は資料送付。皆様の声にならない叫びが聞こえてくるような報告書でした。引き続き、コロナの厳しい状況が続く中、学校教職員および教育委員会、文化・スポーツ団体、関係機関などの皆さまがそれぞれの場で、教育活動、研究、文化活動等に工夫して取り組まれたことに心から敬意を表します。

・「新しい生活様式」の一端をオンラインによる情報共有が担っていくことは間違いのないことだと思われます。端末を家庭に持ち帰っての活用、オンライン授業の試行・実施、不登校児童生徒への活用を推進できた、とあるのは特筆すべき点です。校務の情報化の推進、情報モラル教育の充実ともに、ICT以外の教育のさらなる拡充も求めます。

・本に親しむ環境の醸成は学校内外で今年度も継続されています。市内小中学校に学校図書館教育補助員が1人ずつ配置され、ほぼ全ての学校において「学校図書館図書標準」が達成されています。小学1年生に本を1冊プレゼントするセカンドブック事業も継続しており、公共図書館4館においても学校図書館においても、貸出者数、貸出冊数は前年度を上回っています。子どもも大人も読みたくなるような図書の購入を今後もお願いします。

・各学校での早期発見といじめ解消の取り組みにより、いじめの認知件数は前年度に比べ、小中学校ともに2倍以上に増えたものの、解消率が約60%であり、解消後の見届けも行っている、との報告は評価できるものです。いじめ対策委員会・いじめ調査委員会委員の専門性を生かした視点で、組織的な対応のあり方を今後も協議してください。

・環境教育ではグリーンカーテンやエコライフDAYが、福祉教育では車いす体験、赤い羽根などの募金活動など身近な取り組みが行われていることは評価できます。これらの教育活動をSDGsの観点からもう一度とらえ直し検討することをお願いしたいと思います。

・「言葉やきこえ」の発達、情緒障害や発達障害、日本語の苦手な子どもなど、特別な配慮を要する児童生徒の数は増加傾向を示していますが、各種補助員、専門家、通級指導教室などによる適切な指導が行われています。今後も、在籍校の特別支援コーディネーターや担任と連携を図り、より多くの子どもの現状と課題に対し適切な指導をお願いします。

・放課後子供教室事業も開室以来10年目を迎えました。市内の全ての小学校にあり、地域のスタッフを中心に運営され、学習と体験活動の2種類の活動が行われています。これまで培った信頼関係をもとに、家庭・地域の教育力向上の一翼を今後も担ってください。

・公民館の講座開催事業において、前年度の54講座の約1.5倍の79講座を実施できたこと、また新規サークル3団体が発足できたことは関係者の方々のご苦勞の賜物です。公民館事業の本来の役割(つどう、まなぶ、むすぶ)を果たすことができる日も近いと思います。

・伝承活動を開催できなかった民俗芸能伝承団体に対しても事業交付金が交付されたこと、「松原真言保存会」が埼玉県代表として関東ブロック民俗芸能大会で、その芸能を披露することができたこと、歴史民俗資料館の民俗展示において民俗行事を映像資料として公開した所、多くの方から好評を得て、民俗行事の再開を望む声が寄せられたこと。そのどれもが担い手の皆さんの、コロナ後の活動再開の意欲につながるものであったことでしょう。そして、次なる若い世代に受け継がれていく原動力となることを祈るばかりです。

令和４年度 点検評価報告書
編集・発行 桶川市教育委員会

令和４年８月発行
〒363-8501 埼玉県桶川市泉一丁目３番２８号
電 話：048-786-3211（代）
F A X：048-786-5043
E-Mail：kyoikusomu@city.okegawa.lg.jp
